

# 南陽市遺跡分布調査報告書（2）

2015年3月

南陽市教育委員会







# **南陽市遺跡分布調査報告書（2）**

**南陽市埋蔵文化財調査報告書第10集**

**平成27年3月**

**南陽市教育委員会**



## 序

この度、「南陽市遺跡分布調査報告書（2）」を発行する運びとなりました。本書は、南陽市教育委員会が平成26年に実施した、各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るための踏査、試掘調査、立会調査と、遺跡台帳整備のための分布調査の結果をまとめたものです。

本市は、北に丘陵、南に沃野と豊かな自然に恵まれ、旧石器時代から中世に至るまで、数多くの遺跡が存在します。人々が生活した住居跡・古墳・役所跡・城館等の「遺跡」と、石器や土器等の「遺物」は、大地に埋まっている貴重な文化財であるため「埋蔵文化財」と呼ばれ、市内各地には、悠久の歴史を物語る埋蔵文化財が眠っております。土地を離れて人の生活は無く、その土地にはその土地の歴史が息づいております。埋蔵文化財は、その土地や地域の歴史を明らかにし、地域の宝として世代を越えて伝えられ、人々の地域への愛着やそこに生きる人々の誇りと自負を育んでいくものとなります。

現代を生きる私たちは、様々な営みの中で土地を利活用し、開発を行うこととなります。埋蔵文化財を大切にし、ふるさとの歴史を守ることを忘れてはなりません。

私たちには、埋蔵文化財を保護し、やむを得ず破壊される場合は、記録として保存し、歴史を失うことなく、大切に後世へと引き継いでいく責任があります。

遺跡台帳整備のための分布調査は、埋蔵文化財の所在を把握し、埋蔵文化財を保護するための第一歩となるものです。近年の社会情勢の変化により、遺跡内への開発事業が増加しておりますが、ふるさとの歴史を守るために各種開発事業との調整や諸調査を確実に実施し、遺跡の保護に努めていかねばなりません。

最後になりましたが、調査にご指導、ご協力をいただいた関係各位に、厚くお礼を申し上げます。

平成27年3月

南陽市教育委員会

教育長 猪野忠



## 凡例

- 1 本報告書は、南陽市教育委員会が実施した開発事業との調整並びに遺跡台帳（遺跡地図）整備に関する市内遺跡分布調査報告書である。
- 2 調査期間は、平成 25 年 11 月 28 日から平成 26 年 12 月 26 日までである。
- 3 調査体制は次のとおりである。

調査主任 角田 朋行（スポーツ文化課 課長補佐兼埋蔵文化財係長）  
調査補助員 鈴木 輝生（スポーツ文化課 埋蔵文化財係技能士）  
主 幹 課 スポーツ文化課 主管課長 スポーツ文化課長 江口和浩
- 4 本報告書の作成、執筆は、角田朋行が担当した。
- 5 挿図の縮尺は、各図に示し、各々スケールを附した。
- 6 写真図版は任意の縮尺で採録した。
- 7 小字名は、地名記録の観点から明治期の地籍図によるものとし、現小字名を括弧書きで採録した。
- 8 本調査にあたっては、次の方々によるご指導、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。（敬称略）

佐藤顕雄、佐藤庄一、長井謙治

# 目 次

I 調査の概要	
1 調査の目的と概要	1
2 調査方法	1
3 調査位置図	2
4 調査実施一覧	3
II 遺跡台帳・遺跡地図整備に係る分布調査（踏査）	
1 上野山古墳群	5
2 猿沢山古墳群（B支群）	6
3 二色根古墳群、赤湯秋葉山	8
4 中川地区（岩陰遺跡調査）	10
5 館平館（平井城）	13
6 中川地区（新田字五十勾）、金山地区（字鬼面石）	14
7 東ノ北遺跡	15
8 高木遺跡	16
9 若狭郷屋地区（字西田、字玉ノ木、字樋ノ口）	17
10 馬ノ墓遺跡（馬ノ墓古墳）	18
III 試掘調査	
1 唐越遺跡隣地（三間通字地蔵田）	19
2 大橋城	21
3 長岡南森遺跡	22
4 大野平遺跡	26
5 長岡山遺跡隣地（柄塚字山崎、長岡字小生堂）	27
6 太子堂遺跡	29
IV 立会調査	
1 西中上遺跡隣地（高梨字畠田）	31
2 蒲生田館隣地（蒲生田字道之下）	32
3 東六角遺跡	33
4 宮内字宮前	33
5 宮内字下田	34
6 柄塚館	35
7 中ノ目下遺跡	36
8 長岡南森遺跡	37
9 沢田遺跡・島貫遺跡	39
10 高木遺跡隣地（若狭郷屋字扇田）	40
11 唐越遺跡隣地（若狭郷屋字江中郷）	41
12 萩生田遺跡	42

## 挿図目次

第 1 図 調査位置図	2	第 46 図 高木遺跡隣地開発予定地位置図	40
第 2 図 上野山古墳群・狸沢山古墳群位置図	7	第 47 図 高木遺跡隣地立会調査柱状図	40
第 3 図 二色根古墳群位置図	8	第 48 図 唐越遺跡隣地開発予定地位置図	41
第 4 図 二色橋山・上野山字境図・秋葉山遺物表探地	9	第 49 図 唐越遺跡隣地立会調査柱状図	41
第 5 図 岩部山南側字境図	11	第 50 図 萩生田遺跡開発予定地位置図	42
第 6 図 岩部山南側岩陰及び砂利山マウンド位置図	12	第 51 図 萩生田遺跡平面図	42
第 7 図 館平館位置図	13		
第 8 図 新田地区踏査位置図	14		
第 9 図 東ノ北遺跡範囲図	15		

## 図版目次

第 10 図 高木遺跡範囲図	16	図版 1 上野山古墳群	43
第 11 図 字橋ノ口周辺踏査範囲図	17	図版 2 上野山古墳群	44
第 12 図 馬ノ墓遺跡踏査範囲図	18	図版 3 上野山古墳群・狸沢山古墳群	45
第 13 図 三間通字地蔵田開発予定地位置図	19	図版 4 狸沢山古墳群・二色根古墳群	46
第 14 図 三間通字地蔵田トレンド配置図	20	図版 5 岩部山南部踏査	47
第 15 図 三間通字地蔵田 TT2 断面図	20	図版 6 岩部山南部 字橋抜・砂利山	48
第 16 国 三間通字地蔵田 TT1、TT3 柱状図	20	図版 7 館平館・新田地区、東ノ北遺跡、若狭屋敷、馬ノ墓遺跡、	49
第 17 国 大橋城トレンド配置図	21	図版 8 中落合地区、高木遺跡、若狭屋敷、馬ノ墓遺跡、	50
第 18 国 大橋城 TT1、TT2 柱状図	21	字地蔵田	
第 19 国 長岡南森遺跡開発予定地位置図	23	図版 9 大橋城、長岡南森遺跡	51
第 20 国 長岡南森遺跡トレンド配置図	23	図版 10 長岡南森遺跡、大野平遺跡	52
第 21 国 長岡南森遺跡トレンド平面・断面図	24	図版 11 大野平遺跡、長岡山遺跡隣地	53
第 22 国 長岡南森遺跡 TT11、6、1 断面図	25	図版 12 長岡山遺跡隣地、太子堂遺跡	54
第 23 国 長岡南森遺跡トレンド柱状図	25	図版 13 太子堂遺跡、蒲生田館隣地、西中上遺跡隣地	55
第 24 国 大野平遺跡試掘位置図	26	図版 14 東六角遺跡、宮内字宮前、宮内字下田、門塚館	56
第 25 国 大野平遺跡試掘穴柱状図	26	図版 15 中ノ目下遺跡、長岡南森遺跡	57
第 26 国 長岡山遺跡隣地開発予定位置図	27	図版 16 長岡南森遺跡	58
第 27 国 長岡山遺跡隣地試掘位置図	27	図版 17 島貫遺跡、沢田遺跡、高木遺跡隣地、	
第 28 国 長岡山遺跡隣地 TT1 平面図	28	唐越遺跡隣地、萩生田遺跡	59
第 29 国 長岡山遺跡隣地試掘穴・トレンド柱状図	28	図版 18 萩生田遺跡	60
第 30 国 太子堂遺跡試掘位置図	29		
第 31 国 太子堂遺跡 TT1 平面・断面図、TT6 断面図	30		
第 32 国 太子堂遺跡試掘穴・トレンド柱状図	30		
第 33 国 西中上遺跡隣地開発予定位置図	31	第 1 表 上野山古墳群写真撮影地点位置情報	9
第 34 国 西中上遺跡隣地トレンド柱状図	31	第 2 表 狸沢山古墳群(B 文群)写真撮影地点位置情報	9
第 35 国 蒲生田館隣地開発予定位置図	32	第 3 表 二色根古墳群写真撮影地点位置情報	9
第 36 国 東六角遺跡開発予定位置図	33		
第 37 国 宮内字宮前、字下田開発予定地位置図	34		
第 38 国 門塚館開発予定地位置図	35		
第 39 国 門塚館試掘位置図	35		
第 40 国 門塚館トレンド柱状図	35		
第 41 国 中ノ目下遺跡開発予定地位置図	36		
第 42 国 長岡南森遺跡開発予定地位置図	38		
第 43 国 長岡南森遺跡立会調査位置図	38		
第 44 国 長岡南森遺跡立会調査柱状図	38		
第 45 国 沢田遺跡、島貫遺跡開発予定地位置図	39		

## 表目次

第 33 国 西中上遺跡隣地開発予定位置図	31	第 1 表 上野山古墳群写真撮影地点位置情報	9
第 34 国 西中上遺跡隣地トレンド柱状図	31	第 2 表 狸沢山古墳群(B 文群)写真撮影地点位置情報	9
第 35 国 蒲生田館隣地開発予定位置図	32	第 3 表 二色根古墳群写真撮影地点位置情報	9
第 36 国 東六角遺跡開発予定位置図	33		
第 37 国 宮内字宮前、字下田開発予定地位置図	34		
第 38 国 門塚館開発予定地位置図	35		
第 39 国 門塚館試掘位置図	35		
第 40 国 門塚館トレンド柱状図	35		
第 41 国 中ノ目下遺跡開発予定地位置図	36		
第 42 国 長岡南森遺跡開発予定地位置図	38		
第 43 国 長岡南森遺跡立会調査位置図	38		
第 44 国 長岡南森遺跡立会調査柱状図	38		
第 45 国 沢田遺跡、島貫遺跡開発予定地位置図	39		



# **南陽市遺跡分布調查報告書（2）**



## I 調査の概要

### 1 調査の目的と概要

本市では市内全域を対象とする広域分布調査事業を随時実施し、これまで 257 箇所の遺跡を把握しているが、未調査地域も多く残されている現状である。また、発見が古く、容易に立ち入ることのできない山間部の古墳群等、情報が少ない遺跡も存在するため、新規遺跡の把握と既存遺跡の再確認を目的とする分布調査を実施した。

また、近年の経済状況の変化により、遺跡が存在する地域にも開発を進める傾向が増加しており、各種開発との調整を図り遺跡の保護を図るため、試掘調査及び立会調査を実施した。

平成 26 年 4 月から 12 月までの開発行為に伴う遺跡所在の有無に関する照会は計 40 件であった。試掘調査は 4 件、工事立会は 12 件である。試掘調査は、埋蔵文化財包蔵地内で極力実施することとし包蔵地隣接地も実施に努めた。工事立会は、工期に余裕がない場合や工事面積が狭い場合、埋蔵文化財を破壊する恐れが少ないと判断された場合に実施した。なお、平成 26 年度市道整備事業に伴う立会調査を実施した唐越遺跡については、別途報告書において一括報告することとした。

## 2 調査方法

### (1) 踏査及び分布調査

踏査は、開発事業計画地の範囲内及びその周辺の踏査を行い、遺跡の範囲と開発予定区域の平面的な関係を確認する調査である。分布調査は、主に遺跡台帳整備のための踏査である。いずれも事前・事後に周知の資料により、地形状況や従来の報告等の内容を確認している。今回は、GPS 付のカメラやスマートフォンを活用し、簡易な位置情報を記録しながら踏査した。目印の無い山林内において有効であった。

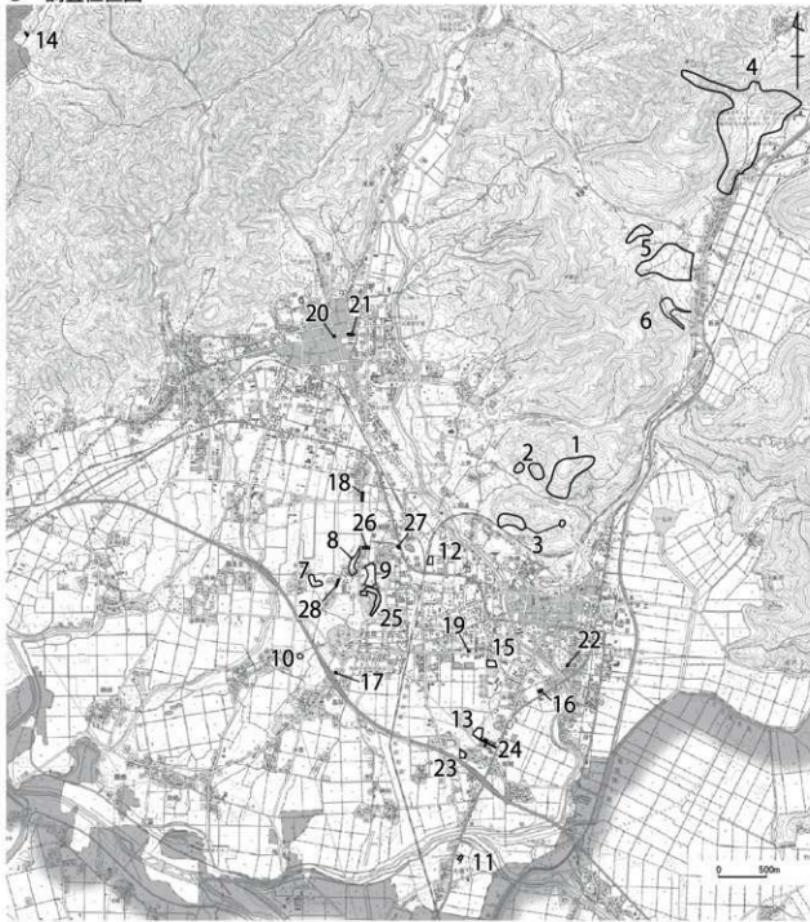
### (2) 試掘調査

試掘調査は、坪堀りやトレーニング調査を行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や遺構確認面までの深さ等を把握し、遺跡内容の把握を行う調査である。開発予定地内にグリッドを設定し、テストピット（試掘穴）又はトレーニング（試掘溝）を配して重機又は人力で表土及び堆積土を除去し、遺構の有無を確認した。

### (3) 立会調査

立会調査は、基本的に開発事業による遺跡への影響が軽微な場合に、工事施工に立ち会って実施し、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う調査である。工事の進捗にあわせ、土工事を行う際に立会いを行い、遺構・遺物の確認及び土層の確認を行った。掘削深度は工事の堀底面である。

### 3 調査位置図



第1図 調査位置図 S=1/50000

- |                    |                     |                 |
|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1 上野山古墳群           | 11 大橋城              | 21 宮内字下田        |
| 2 犀沢山古墳群 A 支群・B 支群 | 12 三間通字地藏田          | 22 桐塚館          |
| 3 二色根古墳群、赤湯秋葉山     | 13 長岡南森遺跡           | 23 中ノ目下遺跡       |
| 4 岩部山南西部(字砂利山～岩屋堂) | 14 大野平遺跡            | 24 長岡南森遺跡       |
| 5 館平館(字館、館平、棚端山)   | 15 長岡山遺跡隣地(字山崎、小生堂) | 25 沢田遺跡・島貴遺跡    |
| 6 新田字五十勿           | 16 太子堂遺跡            | 26 高木遺跡隣地(字肩田)  |
| 7 東ノ北遺跡            | 17 西中上遺跡隣地(字畑田)     | 27 唐越遺跡隣地(字江中高) |
| 8 高木遺跡             | 18 蒲生田館隣地(字道之下)     | 28 萩生田遺跡        |
| 9 若狭郷屋字西田、玉ノ木、樋ノ口  | 19 東六角遺跡            |                 |
| 10 馬ノ墓遺跡(馬ノ墓古墳)    | 20 宮内字宮前            |                 |

**平成 26 年度 埋蔵文化財分布・試掘・立会調査実施一覧**

地区	事業種別	月日	遺跡名	調査箇所	区分	調査概要
赤湯	分布調査	3月 27 日	未確認	二色根字南房觀音堂	踏査	遺跡不明、段々塙は曲輪の可能性も候検討
赤湯	分布調査	3月 28 日	二色根古墳群 二色根館	二色根館の山	踏査	写真撮影、現地確認。新規古墳の可能性のあるマウンドを確認
赤湯	民間開発	3月 28 日	大橋城跡	大橋字西門口	試掘	遺構・遺物なし
赤湯	分布調査	4月 2 日	二色根古墳群 上野山古墳群 長岡山遺跡	二色根館の山 上野山 長岡字南森	踏査	写真撮影、踏査。金属探知機（水道課）による電探。 上野山 1 号墳を確認。
赤湯	分布調査	4月 10 日	上野山古墳群	上野山（宇賀沢山）	踏査	第 3 地点で 2 号墳～6 号墳を確認。第 2 地点で 7 号墳を確認
赤湯	分布調査	4月 15 日	松沢古墳群	松沢字赤石山	踏査	古墳の現況確認と未確認古墳探索のため一帯の地形を確認する。
赤湯	分布調査	4月 17 日	松沢古墳群	松沢字赤石山	踏査	松沢古墳群の G.P.S 位置情報を取得したため調査
赤湯	分布調査	4月 23 日	中野山古墳群	二色根山 (赤湯秋葉山、宇浦山)	踏査	赤湯秋葉山南斜面は特に無し。秋葉山山頂南平垣地へ緩斜面で須恵器表露。薬師寺裏の宇浦山は一部平坦面あるがマウンド等は無し。
赤湯	分布調査	4月 24 日	理沢山古墳群～ 上野山古墳群	赤湯字理沢山	踏査	周知の理沢山古墳群の立地する斜面と谷を隔てて反対側の斜面を踏査し、6 基の円墳を新規に確認した。
赤湯	分布調査	4月 24 日	二色根館	二色根山西側一帯	踏査	特になし
赤湯	分布調査	5月 2 日	理沢山古墳群	上野字理沢山～ 宇蒲生田山・二	踏査	周知の理沢山古墳群の他に古墳らしいものはない。理沢山古墳群のある谷の北側奥に坑道跡を確認。
赤湯	分布調査	5月 14 日	上野山古墳群	上野字理沢山	踏査	上野山 8 号墳～13 号墳を確認した。
赤湯	分布調査	5月 23 日	未確認	赤湯字大沢山 字夷平山	踏査	夷平地で終末期古墳の可能性もあるマウンドらしきもの 4 基を新たに確認したが、遺物も無く形状も不明瞭であることから、塚状地形として位置を把握し、調査を継続する。
赤湯	分布調査	5月 23 日	上野山古墳群	上野字理沢山	踏査	考古資料編記載の 14 号墳を確認する。 ①赤湯と新田の境にある地蔵堂周辺を踏査、貢貝を表採。②南森西の宅地造成に係る周辺踏査。才藤二で土師器片を表採。地形的に流れ込みと判断。③宅地新築に係る周辺踏査。館の山南側墓地内に板磚跡を確認。④稻荷神社周辺を踏査。特になし。
赤湯	分布調査	5月 30 日	長岡南森遺跡	長岡字南森	踏査	赤湯と新田の境にある地蔵堂周辺を踏査、貢貝を表採。
赤湯	分布調査	6月 4 日	門塙館	門塙館	踏査	②長岡字南森西～墨塙 才藤、③門塙字館の山、④三間通字福能
赤湯	民間開発	6月 13. 17. 18 日	長岡南森遺跡	長岡字南森西	試掘	丘陵に近い東側で中世～近世以降と思われる掘立柱建物 1 棟を検出
赤湯	分布調査	6月 13 日	未確認 (近世墓跡付近)	烏帽子山公園南斜面	踏査	善性院跡の北西に位置し、江戸期の絵図面に「瀬戸」の記載が見られる。跡跡は急傾斜地で防護工事で既に消滅と思われる。
赤湯	民間開発	6月 26 日	門塙館	門塙字西田	立会	遺構・遺物ともに検出されなかつた。
赤湯	公共施設 整備	7月 10 日	唐越遺跡	三間通 4.30 - 2 (市役所庁舎前)	立会	堀掻門移転に伴う立会。遺構・遺物ともに検出されなかつた。
赤湯	下水道整備	9月 18 日～ 11月 29 日	長岡南森遺跡	長岡字清水尻	立会	遺構・遺物なし
赤湯	民間開発	10月 14 日 ～ 17 日	未確認	門塙字山崎 長岡字小生堂	試掘	遺構・遺物なし
赤湯	民間開発	10月 23 日 ～ 27 日	太子堂遺跡	門塙字太子堂	試掘	遺物なし。溝状の落ち込みあり。
赤湯	道路整備	11月 17 日 ～ 12 月 6 日	唐越遺跡	市役所南線	立会	本調査時に支障物のため調査できなかった範囲の記録保存を行う。
中川	分布調査	4月 4 日	岩屋堂遺跡周辺	岩部山三十三觀音駐車場 西側斜面、日影街道	踏査	西側斜面は遺跡なし。日影街道は枯葉堆積多く表土見えない。
中川	分布調査	4月 11 日	岩屋堂遺跡周辺	岩部山南西側一帯	踏査	岩屋堂から立ち、こもり岩へ踏査し、岩陰等を確認。立石の岩陰では複数斧石を表採。旧日影街道し、鷹戸山頂付近まで登る。
中川	分布調査	4月 16 日	岩屋堂遺跡周辺	岩部山南西側一帯	踏査	日影街道沿いに踏査、洞窟、岩陰等を確認した。
中川	分布調査	4月 22 日	未確認	①岩部山西側（字清水前～砂利山中～沢） ②小岩沢の沢沿い	踏査	①では、洞窟は無く鷲山間連跡が見られる。字砂利山山腹でマウンド 2 基 (M1,M2) を確認。②では、平地部に近いところにしか凝灰岩が見られず、洞窟等は確認できず。
中川	分布調査	5月 1 日	未確認	①金山の鬼面山周辺。 ②川越新田の山崎神社周辺	踏査	①鬼面山の前面、東側に鷲山入口跡かと思われる崖地を確認。②山崎神社の周辺に多くの素影りの鷲山跡を確認。神社南側の山の斜面に比較的新しい坑道入り口を確認。山崎神社は御神体が巨岩をくりぬいた岩内にある。山崎神社石鳥居北側にマウンドらしきものもある。
中川	分布調査	5月 20 日	未確認	川崎字根小屋 字砂利山、字橋抜	踏査	字砂利山でマウンド 2 基 (M3,M4) を新たに確認。多くの露頭振跡を確認した。
中川	分布調査	5月 29. 30 日	館平館	川崎字鶴嘴山 字館平	踏査	館平館の遺跡地図上の位置が違う可能性があることから踏査。位置を確定した。
中川	分布調査	6月 5 日	未確認	川崎（大洞山西側山裾）	踏査	高速道路側道工事に伴う「ピッキ石」周辺の土工事状況を確認。遺構・遺物等はない。

地区	事業種別	月日	遺跡名	調査箇所	区分	調査概要
沖縄	民間開発	3月 12日	未確認	高梨字畠田	立会	遺跡なし
沖縄	道路整備	3月 13日	未確認	蒲生田字道下	立会	遺跡なし
沖縄	分布調査	4月 8日	若狭郷屋敷遺跡	若狭郷屋敷字内方 (神社境内・周辺)	踏査	土師器の小片を表採。宅地北側には土塁状の盛土と素掘りの堀が回る。
沖縄	分布調査	4月 8日	中落合遺跡周辺	中落合字北原西	踏査	新しい「落合堂伊賀守」の石碑あり。低平な方形土壇状になつており、埴輪墓等の可能性もある。遺物は確認されなかつた。
沖縄	分布調査	4月 16日	中落合館	中落合字東ノ北	踏査	中落合館跡の東側、字東ノ北で須恵器片等を表採。高木遺跡は範囲が萩生田遺跡の北側まで広がつてゐることを確認。
沖縄	民間開発	4月 21日、 22日	東六角遺跡	郡山字的場	立会	盛土厚く旧表土まで至らず、遺物等確認されない。
沖縄	民間開発	9月 12日	中ノ目下遺跡	中ノ目字卯ノ木瀬	立会	遺構なし、遺物は表土層から若干表採。
沖縄	分布調査	9月 22日	未確認	郡山字一早	踏査	遺構・遺物なし。庚申塔に再利用された板碑あり。
沖縄	分布調査	9月 24日	観音堂遺跡	若狭郷屋敷荷神社北側	踏査	遺跡の現状確認。須恵器片を表採。
沖縄	民間開発	9月 25日	未確認	若狭郷屋敷字江中郷	立会	遺構・遺物なし
沖縄	道路整備	9月 25日	高木遺跡	若狭郷屋敷田	立会	遺構・遺物なし
沖縄	公園整備	10月 1日	沢田遺跡	沖縄丸堤周辺	立会	遺構・遺物なし
沖縄	鳥貴遺跡					
沖縄	分布調査	10月 1日	未確認	高梨字橋從	踏査	遺構・遺物なし
				酒井(稻荷神社境内)		
沖縄	分布調査	10月 1日	馬の墓遺跡	四面神社境内及び周辺	踏査	須恵器片
沖縄	分布調査	10月 2日	未確認	沖縄古墳内の古事神社	踏査	遺構・遺物なし
沖縄	分布調査	11月 7日	鶴ノ館跡	字内城	踏査	草叢茂で確認できず。遺構・遺物なし
沖縄	分布調査	11月 7日	未確認	郡山字間々上2、中ノ 目字五百刈(観音寺)、 錦田	踏査	観音寺は境内周辺に一部埋跡が巡る。板碑等の記録写真を撮影
沖縄	道路整備	12月 9日～ 19日	萩生田遺跡	萩生田字久保 字種下	立会	側溝掘削工事に立ち会う。溝跡状の落ち込み。土師器片1点。
梨郷	分布調査	4月 2日	平野古窯周辺	平野地区	踏査	写真撮影、現地確認。平野窯跡の所在する尾根筋先端に円形状の地形がある。
梨郷	分布調査	4月 8日	梨郷字岸館	梨郷字片岸	踏査	写真撮影。山側からの窑庭(兼研窯)を確認。さらに館の東側に張り出す尾根(尾根下に庚申塔等がある)の尾根筋を踏査
梨郷	分布調査	4月 8日	未確認	平野地区 (長井市境付近)	踏査	平野地区のうち長井市との境に近い緩斜面の一部を踏査。赤土が見られるが、遺物は確認されなかつた。
梨郷	分布調査	5月 30日	沢山遺跡	梨郷字宿ノ東～ 字嵐山	踏査	沢山遺跡の遺跡地図上の位置が違う可能性があることから踏査。位置は、字嵐山と判明。今後内容調査を要するが、位置修正を行う。
梨郷	分布調査	6月 19日	白山田遺跡、 山田 梨郷字白山田、字山田、 遺跡、梨郷上館	字行寺、字上町	踏査	遺跡の現状確認と写真撮影
梨郷	分布調査	9月 2日	上大作裏遺跡	砂塚字中大作二	踏査	蓮成寺の西側墓地に盛土がある。遺物なし。
宮内	民間開発	4月 10日	未確認	宮内字宮前	立会	盛土厚く、掘り下げ面も複乱層である。
宮内	民間開発	4月 14日	未確認	宮内字宮前	立会	基礎掘削工事に立ち会う。90cm以下に旧耕作土、寛永通宝出土。
宮内	分布調査	5月 2日	未確認	宮内字丸山～ 字源兵衛山周辺	踏査	赤湯古墳群の北限を探るため踏査。現況は栗樹園。現況では古墳は確認されず石材も無い。坑道跡を2箇所で確認
宮内	分布調査	5月 27日	未確認	宮内字源兵衛山周辺	踏査	赤湯古墳群の北限を探るため踏査。特になし
宮内	分布調査	6月 4日	未確認	宮内字下田四	立会	掘削深は盛土内にとどまり、旧表土に達しなかつたことから、遺物・構造とともに未検出。
漆山	分布調査	5月 29日	西田遺跡	漆山字西田中三	踏査	周知の遺跡の内容や位置の再確認。須恵器片・土師器片を表採。
			大根在家遺跡	字大根在家一		
			漆山学校下遺跡	字西屋敷一		
漆山	民間開発	6月 25日	大野平遺跡	漆山字須川田	試掘	遺構・遺物ともに検出されなかつた。

調査者 角田朋行 鈴木輝生

岩部山南西部等の洞窟・岩陰遺跡調査は、東北芸術工科大学長井謙治先生に同行  
いただいた。

## II 遺跡台帳・遺跡地図整備に係る分布調査（踏査）

### 1 上野山古墳群

- (1) 調査日 平成 26 年 4 月 2 日、4 月 10 日、5 月 14 日、5 月 23 日
- (2) 調査場所 南陽市字狸沢山、字大沢山（通称「上野山」）
- (3) 調査目的

上野山古墳群は昭和 20 年頃に発見された奈良時代の墳墓群（終末期古墳群）であるが古墳数や位置に曖昧な点があることから古墳数及び位置を確認するため踏査を行った。

### (4) 調査方法及び内容

南陽市史考古資料編に記載のある 3 地点で調査した。考古資料編によれば、第 1 地点（山頂付近）では古墳は明確でなく、むしろ岩陰遺跡として把握されている。第 2 地点（東南斜面）では横穴式石室が 1 基、第 3 地点（南斜面、松林内）では横穴式石室が 3 基と記録されている。GPS 機能付カメラ及び GPS 機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行いながら山中を踏査した。古墳の番号は発見順とした。

### (5) 調査結果

#### ① 第 1 地点（山頂付近）について

第 1 地点は、山を東から登る農道行き止まり地点より標高が高い山頂部である。山頂南側では斜面が大きく崩落し、大きな岩塊が一面に散乱している。重なりあった岩が、崩れた石室を思わせるような地点も複数あるが、全体的な状況から「ガレ場」や「ゴーロ」と称される自然崩壊地形ではないかと思われる。この中に古墳がある可能性は否定できないが確認はできなかった。山頂部では、幅 1 ~ 2 m × 長さ数 m の長方形に掘削したような窪地が数多く存在し、大きな岩が散在している。残雪が多く考古資料編に記載のある「岩陰」は確認できなかった。山頂部のこれらの長方形の窪地は、鉱山に関係する可能性がある。

#### ② 第 2 地点（東南斜面の葡萄園・荒廃園地内）について

山頂東南方向の広い谷地形を含む急斜面で、現在は葡萄園とその荒廃園地となっており、見通しが良く、斜面には古墳らしきものは見当たらず、山頂に近い位置で 2 基を確認した。  
**7 号墳** 第 1 地点に近い位置で石積みのマウンドを確認した。葡萄園に伴う石の集積の可能性もあるが、山側を切り離し、谷側では円形を呈するなど、全体的に山寄式円墳の形状に近いことから 7 号墳としておく。

**14 号墳** 字大沢山 2827-24 の荒廃園地の東北縁の雑木が茂る尾根から少し下った斜面に位置する。考古資料編に写真が掲載されている古墳である。剥き出しの横穴式石室で、東側の側壁が殆ど失われ、天井石が石室内に崩落している。

#### ③ 第 3 地点（南斜面、松林内）について

第 3 地点は、農道の行き止まり地点の西側で第 1 地点より標高が低い区域である。1 号墳を基準に西側の谷筋までの区間を東西に踏査し 13 基を確認した。古墳は急斜面の山腹中、斜面がやや緩斜面になる地点に立地している。

**1 号墳** 松林と荒廃園地との境を南に下った山の中腹にある。封土のない剥き出しの横穴式石室で、考古資料編に記載のある古墳である。

**2 号墳** 1 号墳のすぐ西側に位置する。横穴式石室の天井石が羨道側に滑り落ちており、奥壁と側壁が露出している。大きさは、横（奥壁幅）約 110cm、縦（奥壁～羨門付近）

約 450cm である。玄室（袖石～奥壁）は約 180cm、奥壁石の高さは現況で約 145cm である。墳丘は、20～30cm の石を多用して築造しており山寄式円墳とみられる。

**3号墳** 2号墳の西側に位置し、封土に 20 cm 程の石を多用した山寄式円墳である。

**4号墳** 3号墳から少し離れて西側に位置する。山寄式円墳である。

**5号墳** 4号墳の西側に位置する。山寄式円墳である。

**6号墳** 5号墳の西側に位置する。奥壁石と側石の一部が残存しているが、天井石は失われている。円墳と思われる。約 28 m 下方の緩斜面（A 地点）には箱式石棺側石の可能性もある板状の石が見られ、形状は松沢 1 号墳の石棺の側石に類似する。奈良時代の墳墓群に先行し、古墳時代に遡る古墳が存在した可能性もある。

**8号墳** 1～6号墳のある緩斜面から数メートル下方の緩斜面帯で、3号墳の南側に位置する。直径約 8 m の山寄式円墳である。石室は天井石が失われており奥壁と側壁が露出している。玄室内に天井石か側壁石と思われる石材が落ち込んでいる。奥壁幅は、現況約 82cm、高さは約 106cm、玄室の長さ約 126cm である。

**9号墳** 10号墳の西側に位置し、奥壁と側壁が一部残存する。8号墳と同規模の山寄式円墳と思われる。墳丘はかなり崩れている。

**10号墳** 山腹のやや広めの緩斜面に位置し本古墳群の中では最も墳丘の残りが良い直径約 9 m の円墳である。石室は天井石が失われているが墳丘の破壊は比較的少ない。奥壁と側壁が露出し、側壁上部が崩れて玄室内に落ち込んでいる。現状で奥壁幅は約 105cm、奥壁から羨道入口付近と思われる石材までの長さは約 3 m である。

**11号墳** 10号墳の東側に位置する。直径約 8 m の山寄式円墳と思われる。天井石と思われる石材が露出しているが、原位置かどうか不明である。

**12号墳** 10号墳のやや東側上方の斜面に位置する。直径約 8 m の山寄式円墳で、石室の奥壁上部が露出し、細長い天井石が玄室内に落ち込んでいる。露出している部分での奥壁の幅は約 70cm、高さは約 55cm である。

**13号墳** 12号墳の西側に隣接するマウンドで円墳とみられる。墳丘はかなり崩れていると思われ、石室は既に確認できないがその構造石とみられる石が散乱している。

## 2 狸沢山古墳群（B 支群）

**(1) 調査日** 平成 26 年 4 月 24 日、5 月 2 日

**(2) 調査場所** 南陽市上野字狸沢山、字蒲生田山一、字蒲生田山二

**(3) 調査目的**

狸沢山古墳群は、昭和 34 年に発見された奈良時代の墳墓群（終末期古墳群）で、山の東斜面に奥壁だけの状態の 4 基が現存しているが、「山形懸の古墳」（山形懸文化財保護協会 昭和 28 年）の上野山古墳群に関する報告の中に「上野の北方地点の西傾斜の緩斜面（中略）に数多くの古墳丘があった」との記述がみられ、現存する古墳の位置と山の斜面方位が異なることから、古墳の存在を確認するため踏査を行った。

**(4) 調査方法及び内容**

狸沢山古墳群と沢を挟んで真向いにあたる上野山西斜面を中心に踏査を行う。GPS 機能付カメラ及び GPS 機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行いながら、未登録古墳を確認するため山中を踏査した。古墳の番号は発見順とした。

## (5) 調査結果

上野山西側は、山の中腹以下の緩斜面の全面が畑地及び葡萄園になっており、園地内に古墳石室構造材らしき石材が散乱しているものの現況ではマウンドや古墳の石室と思われるものは確認できなかった。しかし、隣接する上野山古墳群ではかなりの急傾斜地かつ高所に立地するものがあることから、山の中腹より上の急斜面の山林を踏査し、上野山古墳群に近い標高で新たに計6基の円墳を確認した。この6基を狸沢山古墳群B支群とし従来の4基をA支群とする。また、狸沢山古墳群B支群3、4号墳の立地する沢の奥で坑道跡を確認した。近世以前の鉱山跡と思われる。昭和56年の地権者聞き取り記録に「今も未発掘古墳が2~3基現存する。」との情報提供があったことが記されていた。おそらく今次確認の3、4号墳と思われる。

**1号墳** 直径約10mの円墳で、墳頂が窪み、石室の可能性がある石組みが露出している。石組みは現況で短辺(西側)約1.6m×長辺(北側)約1.8mである。古墳の山側は急斜面に一定の平場を設けるため小崖状に切っている可能性がある。

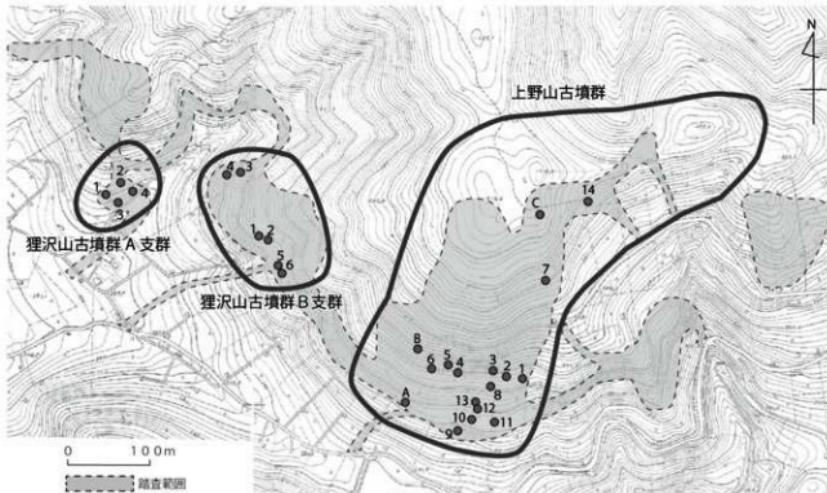
**2号墳** 1号墳から東に約5m離れた位置にある。現況で直径約7mの円墳である。谷側がかなり崩落し、墳丘の一部が残存している状況と思われる。

**3号墳** 1号墳から西の谷側に入った位置にある。1号墳と同規模と思われる山寄式円墳で、直径は約10mである。墳丘の残りは良いと思われる。

**4号墳** 3号墳の西側、やや下方に位置する。直径約8mの山寄式円墳である。墳頂は後世の改変を受けていると思われる。

**5号墳** 2号墳の東側、狭隘な小谷地形を越えたところに位置する。山寄式円墳で直径は約8mである。

**6号墳** 5号墳の東側に位置する。直径は8m程度で山寄式円墳と思われる。墳丘は谷側に崩れているとみられる。



第2図 上野山古墳群・狸沢山古墳群（A支群、B支群）位置図 S=1/6000

### 3 二色根古墳群、赤湯秋葉山

- (1) 調査日 平成 26 年 3 月 28 日、4 月 2 日、4 月 23 日  
(2) 調査場所 南陽市二色根字館山、字館ノ内、字中ノ山、字浦山、赤湯秋葉山  
(3) 調査目的

二色根古墳群は奈良時代の墳墓群（終末期古墳群）で、昭和 8 年に 6 基確認され、そのうち 3 基が現存している。既に所在が不明となった 4 ~ 6 号墳の位置調査を行った。さらに古墳群の立地する二色根山南斜面及び尾根続きの赤湯秋葉山にかけて踏査を行った。

#### (4) 調査方法及び内容

GPS 機能付カメラ及び GPS 機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行いながら、未登録古墳を確認するため山中を踏査した。ボーリングステッキ及び市水道課より借用した金属探知機を補助的に使用した。

#### (5) 調査結果

##### ①二色根古墳について

A・C 地点 3 号墳東側の尾根上にわずかなマウンドが見られた。破壊された古墳の可能性もある。位置的に 4 ~ 6 号墳のいずれとも一致しない。

F・G 地点 F 地点では尾根上にわずかなマウンドがあり、前面にはテラスを巡らすような傾斜変換点を有する地点である。マウンド頂では表土から約 20cm 下に石が存在する。斜面の半ばほどの位置で金属探知機の反応もみられた。位置的に 4 号墳に近いが、4 号墳はかなり破壊を受けていると記録されていることから、当該マウンドは未登録古墳である可能性もある。4 号墳は確認できなかったが、F 地点のすぐ東側の一段高い位置 (G 地点) で山側を断ち切ったマウンドの残存のような地形が並んでいるのを確認、位置的に 5 号墳、6 号墳の可能性が高い。

##### ②赤湯秋葉山の山頂南西斜面（秋葉山東古墳群）について

秋葉山山頂の南西斜面にあたる葡萄園荒廃園地を踏査、長頸瓶と見られる須恵器片等を採集した。採集地は山頂南端にあたる見通しの良い緩斜面で標高は約 324m、北には上野山古墳群が見え、遺物及び立地環境から終末期古墳があった可能性が考えられる。過去の記録からは秋葉山東古墳群に属する可能性がある。周知の二色根館の範囲に重複する。



第 3 図  
二色根古墳群位置図  
S=1/5000

第1表 上野山古墳群 写真撮影地点位置情報

地点	撮影地	N	E	備考
第1地点		38° 03'41.970	140° 09'58.859	山頂
第1地点	C (石材)	38° 03'42.049	140° 09'02.219	壊れた石室か、旧河村葡萄園内
第3地点	1号墳	38° 03'35.440	140° 10'01.451	石室、標高約 354 m
第3地点	2号墳	38° 03'35.579	140° 10'00.677	石室
第3地点	3号墳	38° 03'35.719	140° 10'00.792	マウンド
第3地点	4号墳	38° 03'35.980	140° 09'56.669	マウンド
第3地点	5号墳	38° 03'36.349	140° 09'56.830	マウンド
第3地点	6号墳	38° 03'36.179	140° 09'56.830	石室
第2地点	7号墳	38° 03'39.810	140° 10'03.197	マウンド
第3地点	8号墳	38° 03'34.999	140° 09'59.689	石室、標高約 386 m
第3地点	9号墳	データなし	データなし	石室
第3地点	10号墳	38° 03'33.160	140° 09'58.259	石室
第3地点	11号墳	38° 03'33.839	140° 09'59.519	マウンド
第3地点	12号墳	38° 03'34.260	140° 09'59.080	石室
第3地点	13号墳	38° 03'02.029	140° 09'55.289	マウンド
第2地点	14号墳	38° 03'42.980	140° 10'05.070	石室、考古資料編に写真有
第3地点	A (石材)	38° 03'35.260	140° 09'56.719	箱式石棺の側石の可能性有
第3地点	B (石材)	38° 03'37.139	140° 09'55.680	奥壁状の巨石
第3地点	微マウンド状地形	38° 03'36.840	140° 09'57.439	5号墳の上方
第3地点	微マウンド状地形	38° 03'36.660	140° 09'57.439	5号墳の上方
第3地点	微マウンド状地形	38° 03'36.220	140° 09'57.329	5号墳の上方

第2表 狸沢山古墳群B支群 写真撮影地点位置情報

撮影地	N	E	備考
1号墳	38° 03'41.239	140° 09'47.820	円墳、標高約 324 m
2号墳	1号墳の東隣接地		円墳
3号墳	38° 03'43.819	140° 09'46.829	円墳、標高約 308 m
4号墳	38° 03'43.609	140° 09'46.120	円墳
5号墳	38° 03'40.189	140° 09'48.649	円墳、標高約 327 m
6号墳	5号墳の東隣接地		円墳

第3表 二色根古墳群 写真撮影地点位置情報

撮影地	N	E	備考
二色根1号墳	38° 03'22.789	140° 9'32.940	
二色根2号墳	38° 03'25.499	140° 9'32.440	標高約 260 m
二色根3号墳	38° 03'26.050	140° 9'32.770	
A 地点	38° 03'26.580	140° 9'34.039	3号墳東側の微マウンド地形
B 地点	38° 03'25.639	140° 9'36.289	作業道に石材
C 地点	38° 03'25.489	140° 9'39.199	3号墳東側の微マウンド地形
D 地点	38° 03'25.429	140° 9'41.730	微マウンド地形
E 地点	38° 03'24.949	140° 9'39.250	微マウンド地形
F 地点	38° 03'24.520	140° 9'39.310	古墳か
G 地点	38° 03'24.689	140° 9'40.080	5, 6号墳か



赤湯秋葉山山頂表採土器

第4図 二色根山・上野山字境図、赤湯秋葉山遺物表採範囲

#### 4 中川地区（岩陰遺跡調査）

(1) 調査日 平成 26 年 4 月 8 日、4 月 11 日、4 月 16 日、4 月 22 日

(2) 調査場所 南陽市中川（岩部山南斜面～虚空藏山東斜面）

川樋字清水尻、字根小屋、字橋抜、字砂利山、字中沢  
小岩沢字萱ヶ沢付近

(3) 調査指導 東北芸術工科大学歴史遺産学科 長井謙治

(4) 調査目的

中川地区的山は、主に赤湯古層凝灰岩から形成され、所々自然の岩穴が形成されており、多くの洞窟遺跡で知られる高畠町の山々と類似している。岩部山南側には「こもり岩」等の岩陰や岩屋堂の小風穴、旧日影街道沿いの「跳石」の下にある洞窟等の存在が知られている（昭和 60 年中川小学校「岩部山南山麓洞窟探検調査報告書」）ことから、洞窟・岩陰遺跡の存在を調査する。また、岩部山南側平地部に広がる加藤屋敷遺跡では、多くの硯や墨書き器等が出土し、その西側の字名が「郡石」であることや日影街道が直線的な古道であることから官道に関係した平安時代の遺跡がある可能性も視野に入れて踏査した。

(5) 調査方法及び内容

GPS 機能付カメラ及び GPS 機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行なながら、踏査した。

(6) 調査結果

岩部山南斜面において、洞窟 1 か所、岩陰洞窟 1 か所、その他複数の岩陰が存在することを確認した。立石の岩陰から磨製石斧の破片を表探した。

字砂利山から字郡石の山際は平坦な整地跡が連続し現況は杉林である。枯葉が堆積し遺物の採集はできなかったが、字砂利山及び字橋抜・字中沢の山腹に終末期古墳の可能性があるマウンドを 4 基確認した。

①岩屋堂付近について

巨岩が南斜面に崩落して岩陰を形成しており、その岩をくぐると岩肌に岩部山三十三観音の第 2 ~ 5 の観音像が穿たれている。その岩陰の上に小風穴があり、内部には和尚像が安置されている。風穴の様相は、高畠町の洞窟遺跡に類似しているが小さく狭い。

②立石付近について

立石は字郡石に位置する巨岩である。その東側と北側に崩れた岩による小さな岩陰が形成されており、埋没しているが、東側の岩陰の下で縄文時代後期と思われる磨製石斧の根本部分を表探した。立石の山側（北側）には、大小の岩で囲まれた 6 ~ 8 豊位の空間がある。巨岩に関わる祭祀遺跡が存在する可能性もある。

③こもり岩周辺について

崩れた巨石が重なり南向きに岩陰が生じている。崩落した岩が堆積しており現地表面では遺物等は確認できない。

④日影街道沿いの洞窟について

日影街道の東側、岩の下に南向きの洞窟がわずかに開口している。洞窟前面にややテラス状の緩斜面があり洞窟は奥で縦に深く続いている。山の中腹で標高が高く、付近に水場もない環境であるが一時的利用形態の遺跡が存在する可能性はある。なお、跳石洞窟であれば、縦坑下の横穴は奥行 14.7 m、天井高は最大 3 m と記録されている。

## ⑤岩陰洞窟について

④の洞窟下方で巨石からなる岩陰を確認した。大きな洞窟状の岩陰であり、土砂で埋もれているが、現況で奥行3m以上、幅2m以上、高さは40~50cmである。南向きで日当たりが良く、岩陰遺跡が存在する可能性がある。

## ⑥川樋字清水尻（諏訪神社付近）について

諏訪神社境内の南脇で旧鉱山坑道入口を確認した。坑道口は昭和中頃まで開口していたが埋めたとのこと。きれいなV字の掘り込みの奥に坑道を埋めた地点が見える。掘り込みの先端（平地側）には石積みでテラスが作られている。近世の産業遺跡と言える。岩部山の日影街道を境に西側の山は岩質が異なり、鉱山跡が増える傾向が見られる。

## ⑦字根小屋付近について

字根小屋付近の古い墓石群の中に市指定文化財「天文二十年墓石」があり、付近に常善院という寺があったと言われるが、地形的にこの墓石群の東正面の畠地の平坦地に寺院があった可能性が高い。字名は、虚空藏山館（中世城館址）に関連すると思われる。

## ⑧字橋抜・字中沢・字砂利山付近（砂利山マウンド1~4）について

字橋抜は、橋という人が造った鉱山の排水口に由来するという（「北条郷鉱山史話」今野竹蔵）。緩斜面から山の斜面に至るまで多くのテラスが作られており、地元の話ではかつて桑畠が中腹まで広がっていたという。山裾の小川脇に少し大きめの岩が崩落している。中腹の石垣からなるテラスは段差が大きく、一部は中世館跡に関係している可能性もある。字橋抜の山の中腹に神明神社があり、そこに至る参道脇にはV字状の溝や多くの窪地があり、鉱山の露頭掘り跡と思われる。神社のある尾根北側の谷川の北、山の中腹より高い位置（標高約327m）で、マウンドを2つ確認した。山寄式円墳のように見えるが、鉱山に関係する可能性もある。マウンド1は直径約7.6m、約13m離れて位置するマウンド2はやや不明瞭だが直径約5~6mとみられ、共に字橋抜との境に近い字中沢に位置する。

字砂利山は字橋抜の南側にあたり、諏訪神社北西の斜面にマウンドが2つ並んでいるのを確認した。南側をマウンド3、北側をマウンド4とする。マウンド3は直径約8mの円墳状で山側は山寄式古墳のように切り離されている。マウンド背後のやや離れた斜面に鉱山の掘り跡があることや、墳丘下端のテラス帯が不明瞭なことから、鉱山のボタ山である可能性もあり、古墳可能性地とし今後さらに調査が必要である。字砂利山の西側の一部には、ゴーロ地形があり、斜面のかなり上方まで小規模な野面積みの段（桑畠跡か）がみられる。

字橋抜と字砂利山で確認されたマウンドは鉱山に由来する可能性があるが、赤湯小学校編集「昭和33年社会科資料」の赤湯町生活史年代表に「坂上田村麻呂東夷征伐に際して川樋砂利山の古墳に官軍戦死者を埋

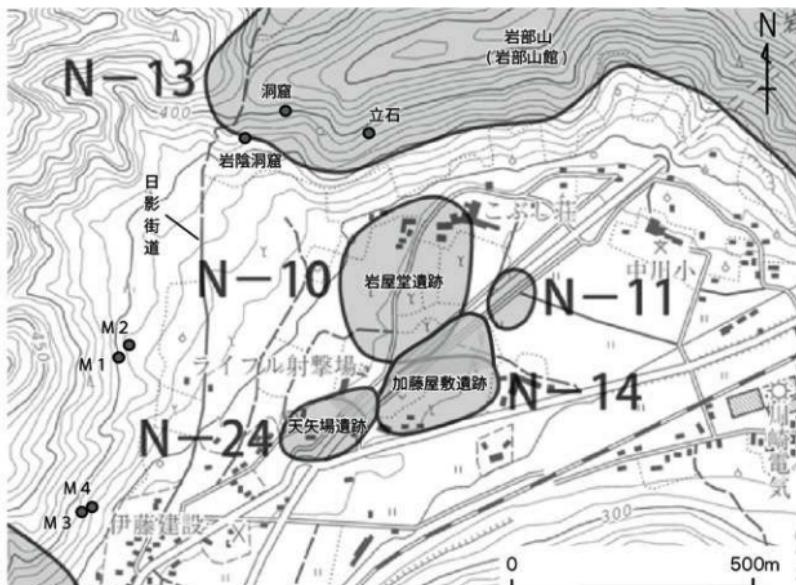


第5図 岩部山南側字塙図

める（伝）」との記載があることを発見、字砂利山に古墳があるという言い伝えが地元に残っていたことが判明した。隣接地の字名が「郡石」であることや、字砂利山東南の字天矢場に溜池を造成した際、地中より直径 20cm 程の木材列が出たという話があることから、付近に官衙的な遺跡がある可能性もあり、古墳（終末期古墳）の可能性については今後さらに調査が必要である。

#### ⑨小岩沢字萱ヶ沢付近について

小岩沢地区南側の沢沿いでは、日向遺跡、長次郎遺跡、北沢遺跡の 3 つの遺跡が登録されており、付近での洞窟・岩陰遺跡の可能性を調べるために地形把握を行った。沢の奥には 2 つの砂防ダムがあるがその付近では岩肌が見えず確認できなかった。沢を下った字萱ヶ沢では赤土層が見られ、日向洞窟等を形成する凝灰岩層より下層の地層であると思われることから可能性は低いと思われる。尾根の先端付近（小岩沢遺跡付近）では凝灰岩が見られるが、洞窟や岩陰は確認できなかった。



第6図 岩部山南側岩陰及び砂利山マウンド位置図 S=1/10000

## 5 館平館（平井城）

(1) 調査日 平成26年5月29日、5月30日

(2) 調査場所 南陽市川樋字棚端山、字館平

(3) 調査目的 中世城館址の館平館（平井城）の位置に曖昧な点があるため確認を行う。

(4) 調査方法及び内容

GPS機能付カメラ及びGPS機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行いながら踏査した。

(5) 調査結果

①字棚端山について

中世城館址報告書では、館平館の北側に「唐沢堤」と記載されているため、旧道沿いの唐沢堤南側にあたる宮内秋葉山北側の枝尾根である棚端山を踏査した。棚端山西側は荒廃園地の緩斜面が広がり、その西際の谷川は急峻で堀として有効と思われるが、付近に城館址らしき遺構は確認できず、棚端山の尾根筋から東へ斜面を下りながら踏査。山の北端に近い位置に掘状の小谷川が西から東へ伸びているが、概ね自然地形であると判断される。

②字館及び字館平について

館平館は竹田氏居住と記録されていることから、字館から字館平の竹田農園地内を踏査させていただいた。葡萄園として整備された広い緩斜面が山裾まで続く。字館平の奥にあたる宮内秋葉山の枝尾根の頂上は、一旦やや平坦になった後、山側で崖み、さらに尾根が秋葉山頂に向かって伸びる。尾根頂は東西長20m程の広さである。谷側に傾斜交換点が無く古墳ではないと思われる。尾根頂までの途中、数箇所に鉱山に由来すると思われる円形の窪地や露頭掘りの跡がある。報告書記載の堤が唐沢堤下方の小堤を指すとすれば地形的に整合すると判断し踏査した。字館平中央付近の杉林内で報告書記載の近世墓地を確認、墓地を基点に踏査し、墳墓北側で報告書記載の曲輪群と思われる地形を確認した。曲輪群の東端を確認後、西端の堀切を確認した。これにより館平館は、川樋館のすぐ南側に隣接する位置にあることが判明、現行遺跡地図上の遺跡範囲がずれていることが分かった。しかし、西端堀切の西にも平坦面が続くことや南側の縄張りが不明瞭で竹田農園の広がる緩斜面の中にも広い平坦面や段があること、字館平の東側の字名が字館であること、字五十匁近くには屋号「館の家」と呼ばれる家があること、周知の館の範囲が字館平の東半に過ぎないこと等を総合的に考えると、平井城の名のとおり、西は字館平、東は字館、南は字五十匁付近までの広い範囲に城館址が広がっている可能性があり、川樋館も平井城の一部である可能性も検討する必要がある。以上から遺跡範囲については範囲の追加修正を行うものとする。



第7図 館平館位置図 S=1/10000

## 6 中川地区（新田字五十匁）、金山地区（字鬼面石）

(1) 調査日 平成 26 年 5 月 1 日

(2) 調査場所 南陽市新田字五十匁、字十匁、金山字鬼面石

(3) 調査目的

遺跡未確認地のうち遺跡の存在が推測される地点を踏査する。岩部山南側の岩陰遺跡調査に引き続き、岩部山と同じ凝灰岩層がある金山と川樋盆地南部にあたる新田地区について踏査し、遺跡と地形、地質等の状況把握を行う。

(4) 調査方法及び内容

GPS 機能付カメラ及び GPS 機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行いながら踏査した。

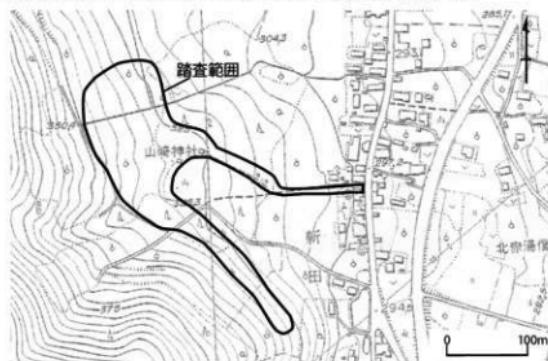
(5) 調査結果

①新田地区（字五十匁、十匁）周辺について

新田公民館脇の参道を登り、山崎神社周辺から踏査を開始した。山崎神社は尾根が張り出した丘陵の上に立地し、神社の周辺には、あちこちに鉱山の素堀りの跡と伝えられる長方形の窪地が掘られている。神社北側には深めの枯れた谷川状の堀り込みが巡り、露頭掘り跡と思われる。尾根の先端付近にある山崎神社石鳥居の北側に円形状の地膨れがあり、鉱山跡だけでなく古墳の可能性も検討する必要がある。山崎神社自体は、御神体が巨石を刳り貫いた中に置かれるという特異な形式である。山崎神社の北側には山神の小社がある。山崎神社の裏山の斜面は荒廃園地となっており、所々に大きな岩が散乱しているが、岩陰やマウンド等の遺構や遺物は確認されなかった。岩質は岩部山とは異なる硬質で鉱物等を含む石で、畑地の石垣等に利用されている。山崎神社の南側の斜面には、鉱山坑道入口跡が残り、その前面には沈殿池や精錬所跡と思われる箇所が残る（宝山鉱山：大正時代まで創業「北条鉱山史話」今野竹蔵）。五十匁の山を踏査したが遺構・遺物は確認できない。

②金山地区（鬼面石）について

金山の字屏風岩や鬼面石周辺の岩石は岩部山と同じ凝灰岩質であることを確認した。鬼面石下方には大きな窪地があり鉱山跡と思われる。鬼面石東側の斜面を断面 U 字で掘り込んだ窪地、鬼面石東北側（鬼面石よりやや上方）の楕円形窪地等も露頭堀等の鉱山関係遺構と思われる。鬼面石自体にも石を切った加工痕が残っている。



第 8 図 新田地区踏査位置図 S=1/6000

## 7 東ノ北遺跡

(1) 調査日 平成26年4月16日

(2) 調査場所 南陽市中落合字東ノ北、中落合遺跡、中落合館

(3) 調査目的

遺跡未確認地のうち遺跡の存在が推測される地点を踏査する。特に郡山遺跡群関連地域の遺跡の把握に努める。

(4) 調査方法及び内容

GPS機能付カメラ及びGPS機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行いながら踏査した。

(5) 調査結果

周知の中落合館及びその周辺の踏査を実施した。中落合館の北側の水田中には、越後から当地に移り住んだ上杉家家臣落合堂伊賀守の記念碑が近年建てられているが、その記念碑設置場所は低平な方形に近い塚状となっている。中落合館の東側でも須恵器が表採されることから、中落合遺跡は周知の範囲を超えて館址の範囲を含む微高地上に広がっているとみられる。中落合館の北側と字東ノ北の西側には直線的に連続する窪地があり、古道又は運河跡と思われる。窪地は上無川と旧吉野川を結んでいる。

中落合館の東側にあたる字東ノ北は、自然堤防状の微高地となっており、現況は果樹園及び畑地となっている。この微高地の広い範囲に土師器片及び須恵器片が散布していることから、新規遺跡として登録した。



第9図 東ノ北遺跡範囲図 S=1/5000

東ノ北遺跡表採土器

## 8 高木遺跡

(1) 調査日 平成 26 年 4 月 16 日

(2) 調査場所 南陽市蒲生田字高木、萩生田字水上、字觀音田

(3) 調査目的

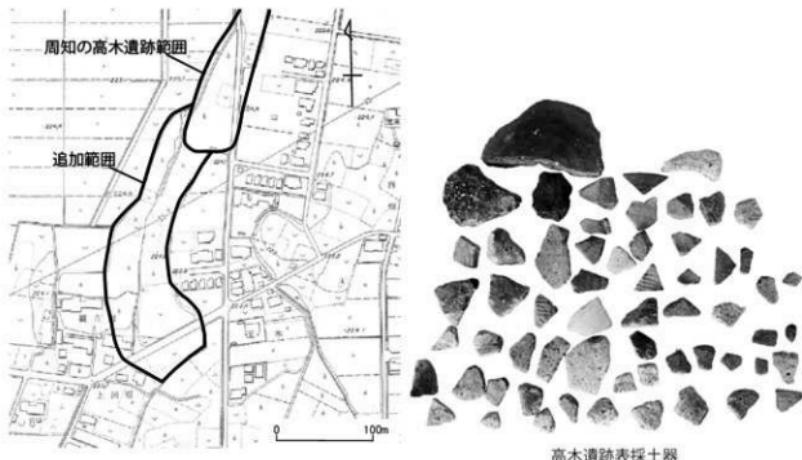
遺跡未確認地のうち遺跡の存在が推測される地点を踏査する。特に郡山遺跡群関連地域の遺跡の把握に努め、高木遺跡の範囲を確認する。

(4) 調査方法及び内容

GPS 機能付カメラ及び GPS 機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行いながら踏査した。周知の遺跡であるが遺跡範囲を確認するため踏査を実施した。

(5) 調査結果

現況は果樹園及び畠地である。遺跡は、旧吉野川の自然堤防上に南へ長く延びており、萩生田字觀音堂まで広がっていることを確認した。旧吉野川は遺跡のすぐ東隣を南流していたと思われる。遺跡は、周知の萩生田遺跡まで連続する可能性がある。表採遺物は、土師器及び須恵器で量的にも多い。



第 10 図 高木遺跡範囲図 S=1/5000

## 9 若狭郷屋地区（字西田、字玉ノ木、字樋ノ口）

(1) 調査日 平成 26 年 10 月 30 日

(2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字西田、字玉ノ木、樋ノ口（樋ノ越）、丸堤北側

(3) 調査目的

遺跡未確認地のうち遺跡の存在が推測される地点を踏査する。特に郡山遺跡群関連地域の遺跡の把握に努める。

(4) 調査方法及び内容

GPS 機能付カメラ及び GPS 機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行いながら踏査した。

(5) 調査結果

①字西田、字玉ノ木

現況は水田と果樹園である。字西田は隣の字玉ノ木の水田に比べ 1 m 以上高い。字玉ノ木に接する字西田の果樹園内に石碑群（湯殿山供養塔等）があり、祠の西側に南北に走る古道は米沢街道と呼ばれていたとのことである。西田遺跡から連続する良好な微高地である。西田遺跡南端にあたる古い墓地の付近では土師器片が表探される。墓地には近世のものと思われる板碑が 1 基存在する。板碑は從来未報告の可能性がある。

②字樋ノ口（現在は字樋ノ越に統合）

現況は果樹園及び畑地で、微高地が北側の字玉ノ木、字西田（周知の西田遺跡）付近まで連続している。字樋ノ口の畑地で、須恵器片を表探した。さらに調査が必要であるが、地形的に周知の西田遺跡の範囲が丸堤付近まで広がっている可能性は高い。



第 11 図 字樋ノ口周辺踏査範囲図

S=1/5000



字西田の墓地内にある板碑

## 10 馬ノ墓遺跡（馬ノ墓古墳）

(1) 調査日 平成 26 年 10 月 1 日

(2) 調査場所 南陽市萩生田字馬ノ墓（字石山女）、四面神社境内イシアキビ

(3) 調査目的 遺跡台帳整備に係る遺跡内容把握のための踏査を行う。

(4) 調査方法及び内容

GPS 機能付カメラ及び GPS 機能付スマートフォンにより簡易位置情報付の写真撮影を行なが周辺を踏査した。

### (5) 調査結果

馬ノ墓遺跡は、平成 4 年に市教育委員会の分布調査で確認された。小字名は明治時代には字馬ノ墓と字石山女に分かれていたが、現在は字馬ノ墓となっている。字石山女に位置する四面神社は古墳時代の墳墓の可能性が高く、市遺跡台帳には古墳として登録されている。

現況は、水田及び神社境内で、吉野川旧河道右岸の微高地上に立地している。今次踏査でも四面神社境内地を中心須恵器片を表採した。古墳時代の遺物は未確認であるが、馬ノ墓古墳は、隣接する大塚遺跡で検出された方形周壕墓や方墳と同様の古墳時代の墳墓であると思われ、地形的にも大塚遺跡と馬の墓遺跡は一体の遺跡とみなして良い状況にあるといえる。



第 12 図 馬ノ墓遺跡踏査範囲図 S=1/5000

馬ノ墓遺跡表採土器

### III 試掘調査

#### 1 唐越遺跡隣地（三間通字地蔵田）

- (1) 調査日 平成 25 年 11 月 28 日
- (2) 調査場所 南陽市三間通字地蔵田 1275-1、1276  
調査対象地（工事）面積 4,261m<sup>2</sup>
- (3) 調査原因 民間開発（93 条）
- (4) 調査方法及び内容

調査対象地 4,261m<sup>2</sup>について手掘りによる試掘を実施した。試掘溝（TT 1～3）と予備地点（TT 4、TP 1～5）を設定した。試掘は、TT 1～3 を掘り下げて実施した。TT 1～3 の試掘状況から、予備地点については試掘不要と判断し、掘り下げを行わなかつた。試掘溝は幅 1m × 長さ 8m × 深さ（遺構確認面又は地山まで）とした。

#### （5）結果

TT 1 と TT 3 からは、遺構・遺物ともに検出されなかつた。TT 2 からは溝跡が検出され、覆土（土層 9）からは縄文土器片が出土したが、同じ層から近代の磁器片も出土しており、当該縄文土器は後世の流れ込みであると思われる。TT 2 の溝跡は、湧水と降雪の悪天候により溝底まで掘り下げが行えず、ボーリングステッキにより掘底以下の土層を確認した。TT 2 の溝跡は、近代まで継続使用されているが、元々比較的幅の広い溝跡が存在し、その上に後世の水路が切られていると思われる。

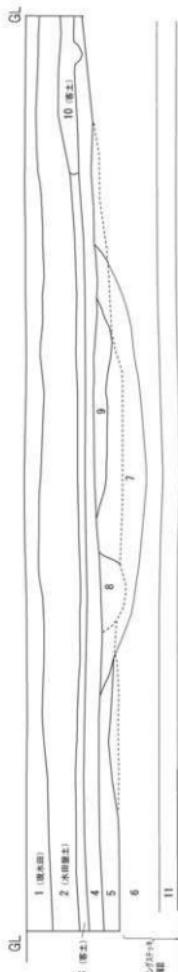
#### （6）考察

調査地は、南陽市三間通字地蔵田に位置し現況は水田である。JR 奥羽本線の東側隣地にあたり、線路西側には周知の唐越遺跡が広がり、北側には東唐越館跡が存在する。吉野川の西岸にあたり洪水の影響を受けやすい低湿地帯であったと思われる。この一帯は昭和 20～30 年代の耕地整理と昭和 50 年代の公害防除特別土地改良事業により大規模な削平や客土が行われている。

調査地西側の唐越遺跡は、縄文時代の遺跡もあることから、TT 2 の縄文土器はそこから流れ込んだ可能性もある。TT 2 の溝跡は、明治 26 年字限図に記載された水路とほぼ一致し、近代まで継続使用されていることが分かつた。用水路下の溝が近世以前に遡るデータは得られなかつたが、周辺一体は古代の条里制が施行されたと思われる範囲に含まれており、TT 2 の用水路下の溝跡は、条里制の南北ラインに沿う可能性がある。調査結果から、周知の唐越遺跡の範囲は今次調査地までは広がらないと思われる。



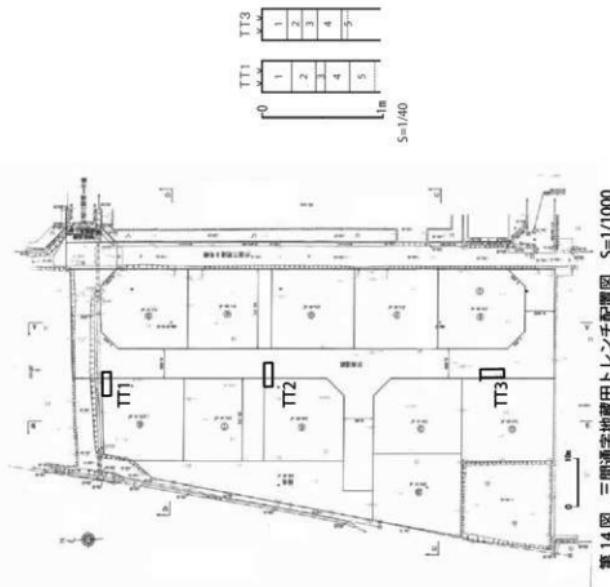
第 13 図 三間通字地蔵田開発予定地位置図 S=1/8000



第15図 三間通字地蔵田 TT 2 断面図 S=1/40

TT 2		TT 1		TT 3	
1 明褐色シルト粘土 (水田)	5 やや明るい明褐色シルト粘土	1 明褐色シルト粘土 (水田)	5 やや明るい明褐色シルト粘土 (灌漑用)	1 明褐色シルト粘土 (水田)	5 やや明るい明褐色シルト粘土
2 棕色シルト粘土	6 オリーブ褐色シルト粘土	2 棕色シルト粘土	6 (土器片を含む)	2 棕色シルト粘土	6 (土器片を含む)
3 棕色シルト粘土 (灌漑用)	7 明褐色シルト粘土	3 棕色シルト粘土 (灌漑用)	7 明褐色シルト粘土 (灌漑用)	3 棕色シルト粘土 (灌漑用)	7 明褐色シルト粘土 (灌漑用)
4 明褐色シルト粘土 (旧耕作土)	8 明褐色シルト粘土	4 明褐色シルト粘土 (旧耕作土)	8 明褐色シルト粘土	4 明褐色シルト粘土 (旧耕作土)	8 明褐色シルト粘土

第15図 三間通字地蔵田 TT 2 断面図 S=1/40



第16図 三間通字地蔵田 TT 1、TT 3 柱状図 S=1/1000

## 2 大橋城

(1) 調査日 平成26年3月28日

(2) 調査場所 南陽市大橋字西門口 2300-1,3, 2301, 2302, 2307

調査対象地（工事）面積 504.6m<sup>2</sup>

(3) 調査原因 民間開発（93条）

(4) 調査方法及び内容

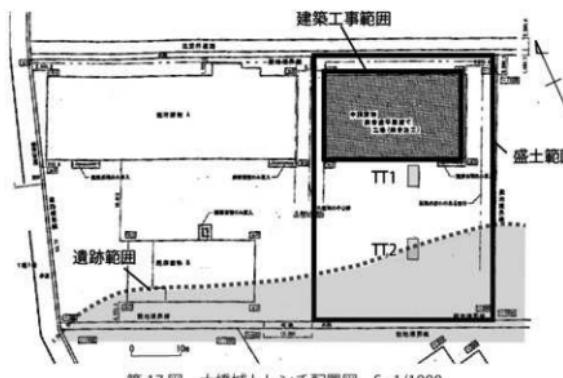
当該地は、周知の大橋城の北端及びその隣地であることから、調査対象地の造成工事前に試掘を行った。調査は、対象地周辺踏査後、対象地に2か所のトレンチ（幅2m×長さ4m）を設定・掘下げし、遺物・遺構の検出を行った。また、南陽市内字限図調査による明治初期の大橋地区の土地利用図から今次調査地と大橋城との位置関係や立地・環境等を検討した。

(5) 結果

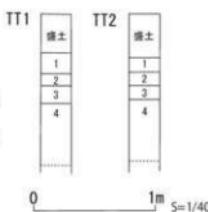
土層断面の観察からは、盛土直下の第1層が旧水田面、第2・3層が水田・盤土（遷移層）、第4層以下が湿地性の土壤である。今次調査では、遺構・遺物ともに確認できなかった。

(6) 考察

今次調査地は、南陽市大橋字西門口に位置し現況は宅地である。当該地は吉野川と屋代川が合流する屋代川左岸にあたり、河川の氾濫を受けやすい低地で、対象地南側に広がる自然堤防上の微高地に大橋城が築城されている。字名が示すように、付近に大橋城の西門があったものと推測されるが、当該地は湿地の様相を示すことから、西門はさらに南の微高地に立地し、第4層以下にみられる低湿地や屋代川を大橋城の北側の備えとして利用していると思われる。



第17図 大橋城トレンチ配置図 S=1/1000



TT1・TT2

1 茶褐色粘土（軟）

2 灰色粘土（中）

3 暗褐色粘土（中）

4 明灰褐色シルト粘土（軟）

第18図 大橋城

TT1, TT2柱状図

### 3 長岡南森遺跡

(1) 調査日 平成 26 年 6 月 13 日、6 月 17 日～18 日

(2) 調査場所 南陽市長岡字南森西 1737-1、1737

俎柳字六百苅 1034-1、1041-3

調査対象地（工事）面積 8,007.19m<sup>2</sup>

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の長岡南森遺跡の西側にあたり、南森丘陵を取り巻く低地部にあたる。旧コンクリート工場跡地の再開発事業である。開発と遺跡保護の調整を図るために、幅 2 m × 長さ 10 m のトレンチ 7 か所、幅 4 m × 長さ 10 m のトレンチ 3 か所を設定し、試掘調査を実施した。一部トレンチでは土層把握のため深堀を行った。

(5) 結果

厚い盛土層下に黒褐色の旧表土層（第 1 層）を確認、さらに数十センチ下にも黒灰色砂質粘土層（第 4 層）が検出され、安定的な時期が二期あったとみられる。第 4 層の時期以前は、周辺に低湿地が広がっていたと思われる。第 4 層及びその上面に堆積している橙色やオリーブ色を帯びる砂質粘土層（第 2 層）からは遺構・遺物は検出されなかった。さらに丘陵に近い範囲では、第 4 層下に低湿地層（第 5 層）があることが確認された。

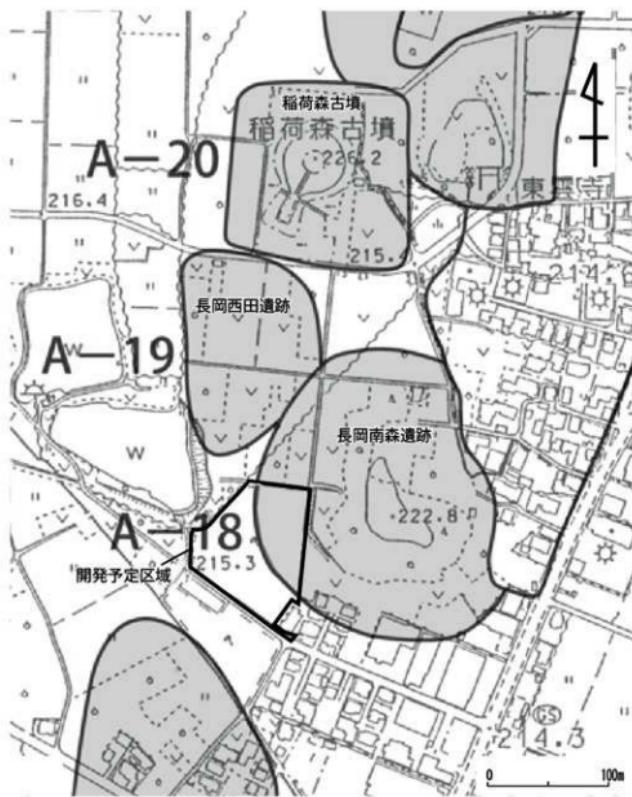
丘陵に近い T T 15、16、17 からは、盛土下の旧耕作土から縄文土器、土師器、須恵器、中世陶器等の破片のほか、最近のガラス片や針金、ビニール等が混在して出土した。遺物は遺構に伴う状況はみられず流れ込みと思われる。T T 13、15、16 では、旧耕作土直下で柱跡とピットが検出されたが、旧耕作土の遺物の状況等から中世～近世のものと思われる。

(6) 審査

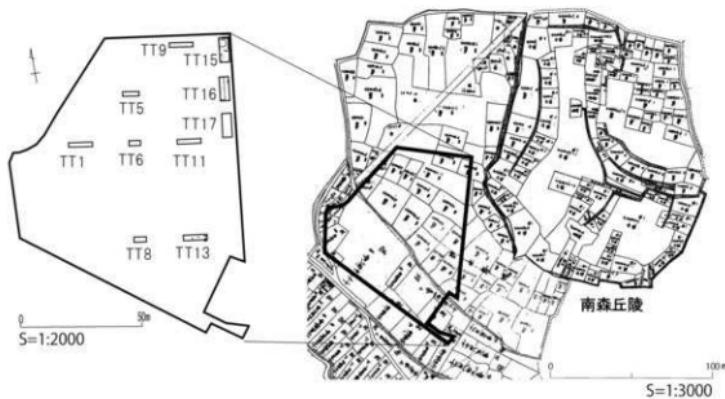
調査地は、大型前方後円墳の可能性がある独立丘陵の南森丘陵西側にあたり、北側は長岡西田遺跡に接する。現況は宅地（工場跡地）であるが、明治時代の字限図では水田である。対象地西側に二つの堤が存在することや周辺の自然堤防等の形状等から、調査地南側を一時期河川が北西方向から南東方向へ流れていったと推定される。

今次試査において、遺構に伴う遺物は検出されなかった。T T 15 では、掘立柱建物 1 栋（S B 1）と S B 1 に伴う柵の可能性のあるピット（S P 1～9）が検出された。遺構確認面の深度は約 70 ～ 100cm と深い。T T 13、16 でもピットが検出されたが周辺の攪乱状況から時期は新しい可能性がある。T T 9 では旧耕作土から掘り込まれた溝が 2 本検出された。調査地東端を中心に検出されたこれらの遺構は中世～近世と思われるが、この周辺地域は江戸時代に洪水被害を受けたという記録があり、洪水堆積土により低地が埋まつたあとに建物を建てた可能性もある。

試掘の結果、南森丘陵西側の丘陵に近い範囲には、広く低平な土地が存在したことが明らかとなり、旧表土下 40 ～ 60cm 下には、さらに古い低地層が存在することが判明した。この古い低地層は、T T 17（5 層）、T T 11（5 層）、T T 6（4 層）で確認され、T T 1 では確認されないことから、T T 6 と T T 1 の間でこの古い低地層が立ち上がり、無くなるものと推測される。この丘陵を取り巻く低地層は、南森丘陵が古墳であった場合、土取跡又はテラス帶となる可能性があり、丘陵本体とともにさらに検討を要する。



第19図 長岡南森遺跡開発予定位置図 S=1:4000

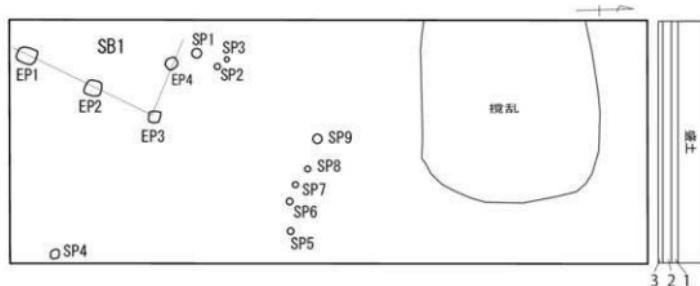


第20図 長岡南森遺跡トレンチ配置図及び周辺字限図（明治8年）

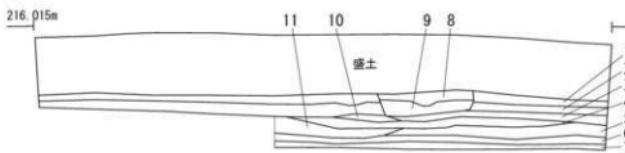
TT13



TT15



TT16

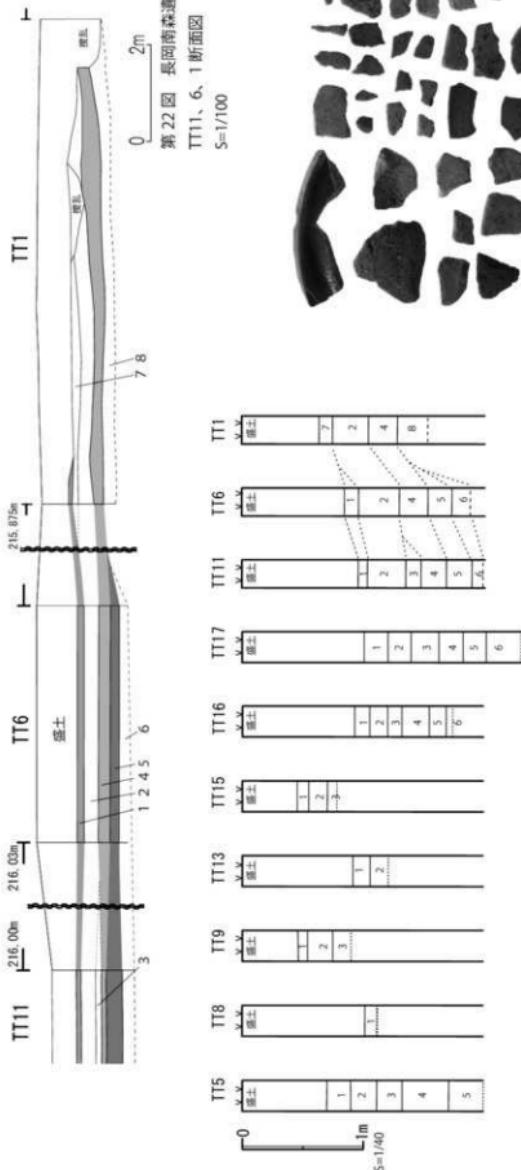


TT 15

- |                      |                              |                                    |
|----------------------|------------------------------|------------------------------------|
| 1 褐色砂質粘土 (硬)         | 1 10YR2/1 黒色粘質砂層 (硬)         | 7 7.5Y2/1 黑色シルト粘土 (中)              |
| 2 暗褐色砂質粘土 (硬)        | 2 10YR4/3 細い黄褐色砂質粘土 (雲母入、硬)  | 8 7.5Y3/1 黑褐色粘質砂層 (砂利混、硬)          |
| 3 明褐色砂質粘土<br>(砂多い、中) | 3 10YR4/4 褐色シルト粘土 (白色粘土混、中)  | 9 7.5Y4/3 褐色粘質砂層 (赤み有、中)           |
|                      | 4 7.5YR0/2 黑褐色粘質砂層 (赤色粘土混、中) | 10 10YR4/1 褐灰色シルト粘土 (白粘土入、中)       |
|                      | 5 10YR4/1 褐灰色砂質粘土 (赤み有、中)    | 11 10YR4/2 灰黄褐色シルト粘土<br>(一部白粘土入、中) |
|                      | 6 7.5Y4/6 褐色粘質砂層 (赤み有、軟)     |                                    |

0 2m

第21図 長岡南森遺跡トレーンチ平面・断面図 S=1/80



A photograph showing a large, dark, circular object, possibly a shield or a lid, surrounded by several smaller, irregular fragments of the same dark material.

TTT-1	TT6-TT1
1	明褐色砂質粘土 (硬)
2	褐色砂質粘土 (灰色)
3	オリーブ褐色シルト
4	灰褐色粘土 (軟)
5	明褐色砂質粘土
6	灰褐色砂質粘土 (軟)
7	黄褐色砂質粘土 (硬)
8	にぶい黄褐色シルト

TT 17	褐色砂質粘土	明褐色砂質粘土
1	褐色砂質粘土	
2	暗褐色砂質粘土	
3	灰褐色砂質粘土	
4	明オリーブ褐色砂質粘土	
5	暗褐色砂質粘土	(TT 6 の第 5 層に相当)
6	明灰色粘土質砂層	

16	黒色粘質砂層 黄褐色粘質粘土 褐色シルト粘土 褐灰色粘質粘土 褐色粘質砂層 黑褐色粘土	(TT6の第5層に相当)
----	--	--------------

天然色砂質粘土  
褐色砂質粘土  
褐色砂質粘土  
褐色砂質粘土  
褐色砂質粘土  
オリーブ褐色砂質粘土

褐色砂質粘土	1
褐色砂質粘土	2
一 ーフ褐色粘土	3
褐色粘土	4
6の第5層に相当)	T T
粘質砂岩	1
	2

TTT

長岡南森遺跡出土遺物

第23図 長岡南森遺跡トレンチ柱状図

#### 4 大野平遺跡

- (1) 調査日 平成 26 年 6 月 25 日  
(2) 調査場所 南陽市漆山字須刈田 3831-46 他  
調査対象地（工事）面積 75m<sup>2</sup>  
(3) 調査原因 民間開発（93 条）  
(4) 調査方法及び内容

当該地は、大野平遺跡の北西端にあたり、地権者がキャンプ場環境整備事業として竪穴式の復元住居整備を計画していることから調査を実施した。対象地 3 箇所計 75m<sup>2</sup>について、各予定地中央に幅 1 m × 長さ 1 m のトレーナー 3 か所を設定し試掘を行った。トレーナー位置は昭和 59 年実施の大野平遺跡第 2 次調査グリッドに準拠した。

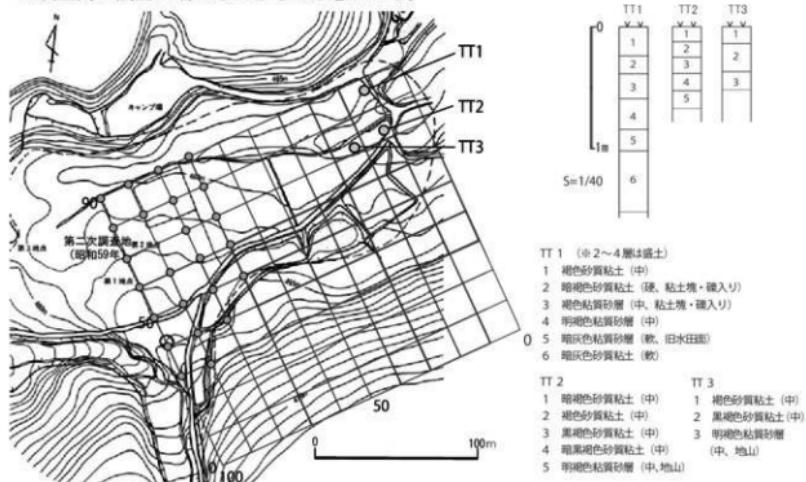
#### （5）結果

TT 1 は 14-83G 地点に設定した。盛土層が厚く地表から 80cm 以下で湿地性の土層となる。地権者によれば、谷の水田を北側の山を切り崩して埋め立てて畑地化した場所とのことである。TT 2 は 14-70.8G 地点に設定した。地表から 52cm の深さで地山に達した。TT 3 は 24-70.8G 地点に設定した。地表から 36cm の深さで地山に達した。3 地点とも遺構・遺物は検出されなかった。

#### （6）考察

調査地は、遺跡の所在する台地の北東部縁辺にあたる。昭和 59 年第 2 次調査では遺跡の主体がある南・中央・西北地区を学術調査し、今回の東北地区は、縄文前期末～縄文中期の遺物が収集されているが試掘は見送られていた。今次試掘で 2 次調査と比較可能な地質データを得た。TT 2 の第 4 層・TT 3 の第 3 層が 2 次調査のⅢ層にあたるとみられる。

TT 1 付近は、現在北から南へ傾斜する微高地であるが、これは厚く盛土された結果であり、この付近の谷部幅はもっと広かったことが判明した。TT 2、3 付近は谷部から 1 m 以上高い段丘の端にあたるものと思われる。



第 24 図 大野平遺跡試掘位置図 S=1/3000

第 25 図 大野平遺跡試掘穴柱状図

## 5 長岡山遺跡隣地（柄塚字山崎、長岡字小生堂）

(1) 調査日 平成 26 年 10 月 15 日～17 日

(2) 調査場所 南陽市 柄塚字山崎 1677、1679-2,10

長岡字小生堂 1060、1060 番先堤塘

調査対象地（工事）面積 5,520m<sup>2</sup>

(3) 調査原因 民間開発

(4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の長岡山遺跡の隣地にあたり、遺跡の有無確認のため試掘調査を行うものとした。調査対象範囲 5,250m<sup>2</sup>について 20 m メッシュで、幅 1 m × 長さ 1 m のトレンチ 10 か所、幅 1 m × 長さ 8 m のトレンチ 1 か所を設定のうえ試掘を実施した。

(5) 結果

公害防除特別対策事業による厚い盛土層の下に旧耕作土と思われる黒褐色の粘土層が見られた。その下層には粘性の強い灰色粘土層が堆積し、深くなるにつれ青味を帯び次第に砂質化する。対象地南側の赤湯小学校体育館地点の従前の試掘調査データから、当該地は河川跡と思われる。遺構・遺物は検出されなかったが、TT1 では約 120cm の深さで、約 70cm 幅の湧水範囲があり、平面は不明瞭ながら断面観察からは、溝跡である可能性が高い。字名の小生堂は、長岡山に越王神社があったことに由来する。

(6) 考察

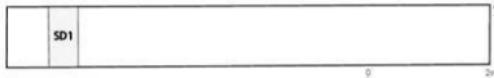
今次調査地は、柄塚字山崎に位置し、南端が長岡字小生堂にかかる。長岡山丘陵の北にあたる低平地で現況は水田である。南側に長岡堤が隣接し、吉野川旧河道又は洪水氾濫域にあたると推測される。土層は、水田耕作層と盤土層が厚く盛土されており、旧表土は、概ね 40cm 以下から検出され、旧表土下の土質は極めて粘性の強い粘土である。遺構及び遺物は検出されなかった。TT1 の溝跡は明確に確認できなかったが、この付近を通ると推定される条里制南北軸の坪ラインに合致する可能性もある。



第 26 図 長岡山遺跡隣地開発予定位置図

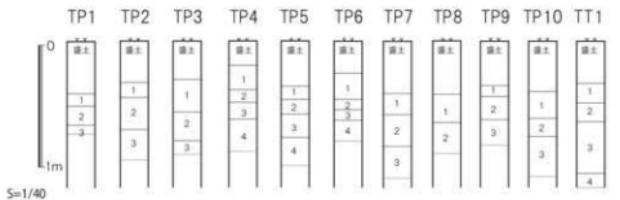


第 27 図 長岡山遺跡隣地試掘位置図 S=1/1500



第 28 図 長岡山遺跡隣地 TT1 平面図

S=1/80



TP 1

- 1 灰褐色砂質粘土
- 2 黒褐色シルト粘土
- 3 灰色粘土
- 4 青みのある褐色粘土

TP 4

- 1 灰褐色砂質粘土
- 2 黒褐色シルト粘土
- 3 灰色粘土
- 4 青みのある褐色粘土

TP 7

- 1 灰褐色砂質粘土
- 2 黒褐色シルト粘土
- 3 灰色粘土

TP 10

- 1 灰褐色砂質粘土
- 2 黑褐色シルト粘土
- 3 灰色粘土

TP 2

- 1 黒褐色シルト粘土
- 2 暗褐色粘土
- 3 灰色粘土
- 4 青みのある褐色砂質粘土

TP 5

- 1 灰褐色砂質粘土
- 2 暗褐色シルト粘土
- 3 灰色粘土
- 4 青みのある褐色砂質粘土

TP 8

- 1 黑褐色シルト粘土
- 2 灰色粘土
- 3 灰色粘土
- 4 暗灰色粘土

TT 1

- 1 灰褐色砂質粘土
- 2 黑褐色シルト粘土
- 3 灰色粘土
- 4 暗灰色粘土

TP 3

- 1 灰褐色砂質粘土
- 2 暗褐色シルト粘土
- 3 灰色粘土
- 4 青みのある褐色砂質粘土

TP 6

- 1 灰褐色シルト粘土
- 2 灰色粘土
- 3 暗褐色砂質粘土
- 4 青みのある褐色砂質粘土

TP 9

- 1 灰褐色砂質粘土
- 2 黑褐色シルト粘土
- 3 灰色粘土

第 29 図 長岡山遺跡隣地試掘穴・トレンチ柱状図

## 6 太子堂遺跡

- (1) 調査日 平成 26 年 10 月 23 日～27 日  
(2) 調査場所 南陽市柄塚字太子堂 379-1,2,4, 380-1, 382-1, 383, 384, 392-1 他  
調査対象地（工事）面積 2,960m<sup>2</sup>  
(3) 調査原因 民間開発（93 条）  
(4) 調査方法及び内容

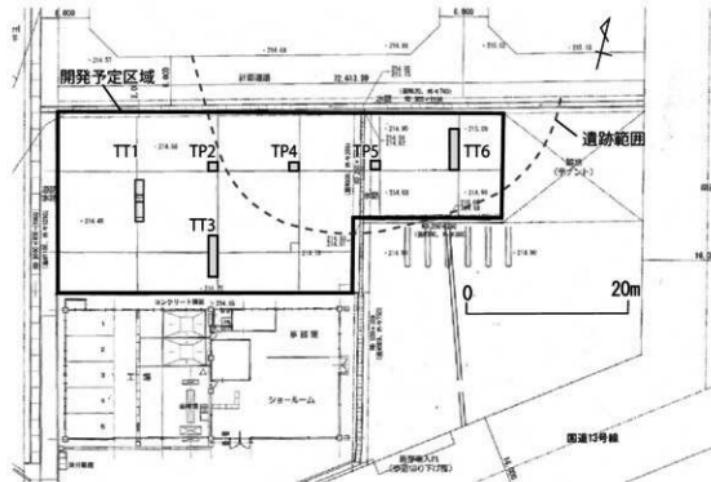
当該地は、周知の太子堂遺跡の東端にかかる事から、遺跡保護と開発との調整を図るために、調査対象地に 10 m メッシュで、幅 1 m × 長さ 1 m の試掘穴 3 か所、幅 1 m × 長さ 5 m のトレンチ 3 か所を設定のうえ試掘を実施した。

### （5）結果

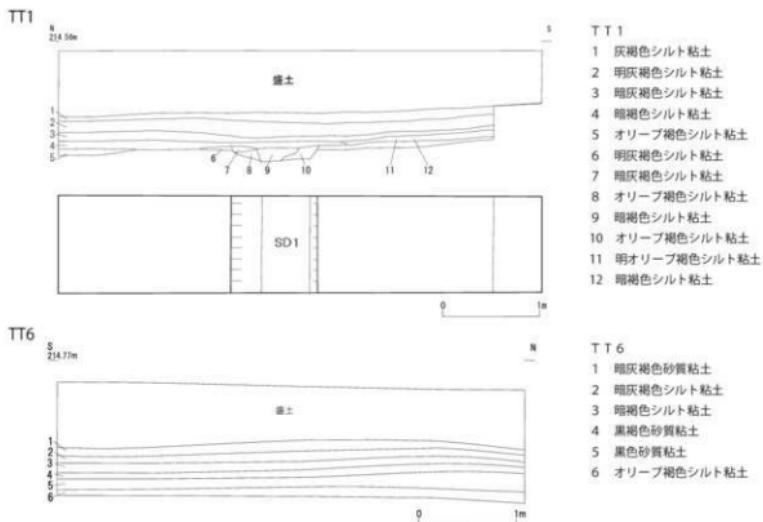
全ての地点で厚い盛土層の下において旧耕作土（水田面）と思われる灰褐色の粘土層が見られ、その下層は、粘性のやや強い暗褐色粘土層、地山の灰黄褐色～オリーブ褐色粘土層となる。TT1～TT6において遺物は検出されなかった。TT1において旧水田層直下で溝跡を検出した。

### （6）考察

今次調査地は、周知の太子堂遺跡の南端に位置する。吉野川の洪水氾濫域にあたる低平地で、現況は宅地である。太子堂遺跡の主体は、調査地北側に広がる埋没自然堤防上に立地するとみられる。TT1において溝跡を検出したが、溝の浅さ等からかなり削平を受けしており、旧水田耕作に伴う可能性もある。溝の時期や内容は不明であるが、条里制の東西坪ラインと一致する可能性がある。



第 30 図 太子堂遺跡試掘位置図 S=1/600



第31図 太子堂遺跡 TT1 平面・断面図、TT6 断面図 S=1/50



第32図 太子堂遺跡試掘穴、トレンチ柱状図

## IV 立会調査

### 1 西中上遺跡隣地（高梨字畠田）

- (1) 調査日 平成 26 年 3 月 12 日  
(2) 調査場所 南陽市高梨字畠田 581-5  
調査対象地（工事）面積 10m<sup>2</sup>  
(3) 調査原因 民間開発  
(4) 調査方法及び内容

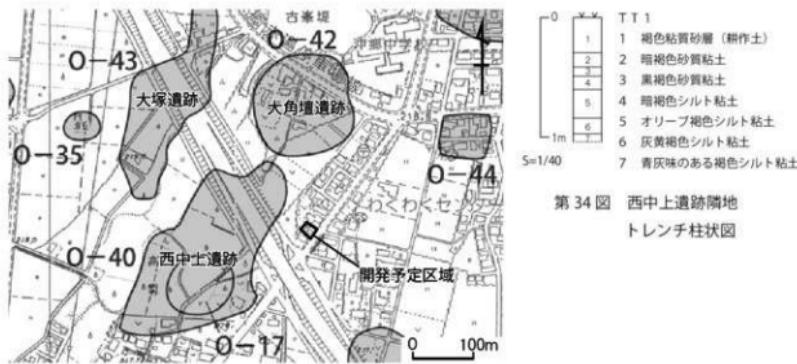
調査地は、西中上遺跡の隣地にあたり遺跡未確認地である。対象地について事前協議を行い、盛土層以下に掘削深度の及ぶ浄化槽設置の際に立会を行うものとし、浄化槽工事範囲縦 2.5 m × 長さ 4 m (10m<sup>2</sup>) について調査を行った。

### （5）結果

遺構・遺物ともに検出されなかった。第 1 層（盛土層）には、近代の土管等の破片が含まれる。第 5 層の上面で壁切と面整理をして確認し、記録後にさらに掘り下げた。第 3 層は旧畠面と思われる。第 5 層は近隣遺跡の遺構面と類似する良好な地質である。第 5 層下部～第 6 層にかけ、小石と砂で埋没した小川跡と思われる落ち込みが見られたが、遺物もなく時期は不明である。堆積している小石は直径 2 ～ 3 cm のほぼ均一な大きさで一度に堆積したと思われ、暗渠の可能性もあるが特定できなかった。当該小川跡は、トレンチ北壁中央で確認されトレンチ東南角の方向に延びているとみられる。

### （6）考察

調査地は、南陽市高梨字畠田に位置し、現況は宅地で県道に面している。周辺は吉野川旧河道左岸の自然堤防にあたり、西側の微高地には西中上遺跡が広がる。今次調査において、遺物は検出されず、遺構と断定できるものがなかったことから、現段階では、当該地に遺跡は無いと思われ、西中上遺跡の範囲は当該地より西側に限定されると思われる。なお、調査地北の大角壇遺跡は、六角壇遺跡という名称で平成 4 年県登録時に古屋敷遺跡と位置を取り違えて登録され、その後本来の古屋敷遺跡が大塚遺跡に統合された。現在、県遺跡地図上では大角壇遺跡が古屋敷遺跡の名称で記載されている。正しくは、大角壇遺跡は、第 25 図のとおり西中上遺跡の北に位置する。



## 2 蒲生田館隣地（蒲生田字道之下）

- (1) 調査日 平成 26 年 3 月 13 日
- (2) 調査場所 南陽市蒲生田字道之下（市道蒲生田本線内）
- (3) 調査原因 市道整備事業
- (4) 調査方法及び内容

当該地は周知の遺跡の範囲ではないが、蒲生田館及び蒲生田南館遺跡の隣地であることから、市道工事に際し掘削状況を確認し、遺構・遺物の有無の確認と地質の確認を行った。工事は、水路の明渠コンクリート製V字溝を蓋付のU字溝に交換し道路幅を確保するものであり、新たな掘削（拡幅）はほとんどなく限定的であった。

## (5) 結果

掘削断面の観察から遺構は見られず、遺物も確認されなかった。水田面（第1層）、水田盤土（第2層）、明褐色砂質粘土層（第3層）までは、土質が均一で水平であることから、耕地整理による土層と思われる。第4層以下は、平成 25 年 11 月に実施した市道旭町高梨線歩道整備事業における第3層以下の地質（条里制水田面）と類似する。

## (6) 考察

今次調査地は、南陽市蒲生田字道之下に位置し、現況は市道蒲生田本線の用水路兼道路側溝である。当該地は、吉野川旧河道右岸の川べりにあたり、すぐ西側の自然堤防上に蒲生田館が築城されている。蒲生田地区には条里制水田があつたことが知られており、当該地点は坪区画の内側にあたると推定されるため、区画溝等はもともと無い可能性が高いが、耕地整理の影響も大きく、遺構・遺物とともに確認できなかった。蒲生田館の立地する微高地から一段低いことから南曲輪の掘に相当する低湿地にあたる可能性もあると思われる。



第35図 蒲生田館隣地開発予定位置図 S=1/8000

### 3 東六角遺跡

- (1) 調査日 平成 26 年 4 月 21 日、4 月 22 日
- (2) 調査場所 南陽市郡山字的場 624-1  
調査対象地（工事）面積 46.12m<sup>2</sup>
- (3) 調査原因 民間開発（93 条）
- (4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の東六角遺跡にかかるところから工事立会を行うものとした。支柱基礎工事にかかる重機による掘り下げ時に立会い、掘削層の確認と遺物・遺構の検出を行った。

#### (5) 結果

旧水田耕作面上に既存の盛土層が 1 m 以上ある。カーポート基礎工に伴う掘削深は、盛土層内で納まり、旧表土まで掘削しなかったことから遺構・遺物ともに検出できなかった。

#### (6) 考察

調査地は、現況は宅地、以前は低平な土地で水田であった。調査地から西へ約 170m の微高地には置賜郡衙推定地のひとつである矢ノ目館跡が所在している。調査地東側一帯は昭和 60 年に県教委が分布調査を実施したが遺構は検出されなかった。



第 36 図 東六角遺跡開発予定位図 S=1/8000

### 4 宮内字宮前

- (1) 調査日 平成 26 年 4 月 10 日、4 月 14 日
- (2) 調査場所 南陽市宮内字宮前 2625  
調査対象地（工事）面積 690m<sup>2</sup>
- (3) 調査原因 民間開発
- (4) 調査方法及び内容

宮内は古くからの市街地であるため、遺跡未確認地が多く、掘削を行う際に立会を行うものとした。調査は敷地南側の幅約 1 m の側溝と建物基礎の工事の範囲とした。

#### (5) 結果

元ガソリンスタンド用地への店舗開発にともなう立会調査である。対象地の敷地全般に厚く盛土されており、基礎工底面（現況地面から深 60 ~ 70cm）でも盛土層である。側溝工事の堀底面（現況地面から深 120 ~ 130cm）で旧耕作土に相当すると思われる暗褐色砂質粘土層を検出し、旧耕作土中から寛永通宝 1 枚が出土した。盛土には近世～近代の磁器片や瓦等が混入している。

#### (6) 考察

調査地は、南陽市宮内字宮前に位置し現況は宅地である。吉野川右岸にあたり、宮内扇状地の扇頂付近、菖蒲沢から流れ出る宮沢川による小扇状地状の高疊地で、古くから宮内の町として栄えた。北條郷代官安部馬之助の屋敷跡が調査地の南に接し、北は熊野大社の門前通りを見通し、調査地北で門前通りが鍵型に屈曲し南に向かう。盛土層が厚く、今次調査では遺構・遺物は確認されなかった。

## 5 宮内字下田

- (1) 調査日 平成 26 年 6 月 5 日
- (2) 調査場所 南陽市宮内字下田 2508  
調査対象地（工事）面積 730m<sup>2</sup>

- (3) 調査原因 民間開発
- (4) 調査方法及び内容

遺跡有無の未確認地である対象地について事前協議を行い、掘削を行う際に立会を行うものとした。調査地点は、深堀りを行う建物基礎工事の範囲とした。

## (5) 結果

対象地は、1 m以上盛土されている宅地の再開発であるため、基礎工掘底も盛土層内に取りまじて旧地表にも到達しなかったことから、遺構・遺物ともに確認できなかった。

## (6) 考察

今次調査地は、南陽市宮内字下田四に位置し、現況は宅地である。吉野川右岸で、古くから宮内町として栄えた区域にあたり、付近は以前から宅地が連担する地域であるため、なかなか遺跡の有無が確認できない地域である。今次も掘削深が旧表土まで達しなかったことから、地質や遺構の有無を確認することはできなかった。



第37図 宮内字宮前、字下田開発予定地位置図 S=1/8000

## 6 桜塚館

- (1) 調査日 平成26年6月26日  
(2) 調査場所 南陽市桜塚字前田754  
調査対象地(工事)面積 141.8m<sup>2</sup>  
(3) 調査原因 民間開発(93条)  
(4) 調査方法及び内容

調査地は、桜塚館の南端にあたる。旧宅解体後の掘削の際に立会・試掘を行うものとした。調査地点は、建物基礎工事の範囲とし、土工事の前に予定地の中心部にトレントを1箇所(幅1m×長さ2m)設定し、掘削予定深における遺構の有無を確認した。TP2はボーリングステッキによる土層確認である。

## (5) 結果

工事で予定している掘削深の直上まで盛土・攪乱層が堆積し、堀底面においても断面・平面で遺構は検出されず、遺物も確認できなかった。なお、予備調査で対象地周辺を踏査し、予定地北側の畠地で縄文土器片及び石器を表採した。

## (6) 考察

調査地は、桜塚館の南端にあたる。明治時代の地籍図やTP2から敷地北辺には館堀があったと思われ、現在も水路が走っている。開発予定区域はちょうど堀の外側にあたる地点とみられる。周辺は館の山丘陵の南向きの緩斜面に位置しており、今回は未検出であったが縄文時代の遺跡が広がっている可能性もある。



第38図 桜塚館開発予定位置図 S=1/8000



第39図 桜塚館試掘位置図 S=1/500



第40図 桜塚館トレント柱状図

## 7 中ノ目下遺跡

(1) 調査日 平成26年9月12日

(2) 調査場所 南陽市中ノ目字卯ノ木浦 563-1

調査対象地（工事）面積 3,100m<sup>2</sup>

(3) 調査原因 民間開発（93条）

(4) 調査方法及び内容

対象地東半が周知の中ノ目下遺跡にかかる。水田・畑地を果樹園化する農地開発で、現在の耕作土を取り除き、新たな用土を入れる計画であることから、耕作土除去後に立会調査を行い、遺跡への影響把握と遺構・遺物の有無の確認を行った。

### （5）結果

表土剥離により、東端で70cm、西端で50cmの深さで表土を全面的に剥がした状態で調査を行ったが、掘削面で遺構は確認されなかった。遺物は数点採取されたが、いずれも表土層からの検出であった。

### （6）考察

今次調査地は、南陽市中ノ目字卯ノ木浦に位置し、中ノ目下遺跡の範囲となっており、現況は水田・畑地である。調査地の東側には内城館・鞠ノ木館跡が所在し、中ノ目下遺跡はこれらと関連のある遺跡と思われるが、今次調査では遺構は確認できず、表探された土器も遺構に伴う状況はなかった。遺跡が立地する微高地は、対象地東側で高くなる傾向を示すことから中ノ目下遺跡の主体は対象地東側に所在すると思われる。



第41図 中ノ目下遺跡開発予定地位置図 S=1/8000

中ノ目下遺跡表探遺物

## 8 長岡南森遺跡

- (1) 調査日 平成26年9月18日～11月13日  
(2) 調査場所 南陽市長岡字清水尻 732-1,2,5,6,7,10、733-1,4,7  
調査対象地（工事）面積 597m<sup>2</sup>  
(3) 調査原因 下水道整備事業（94条）  
(4) 調査方法及び内容

対象地の現況は道路であるが、工事が周知の長岡南森遺跡の南端にかかるところから、掘削の際に立会調査を行い、土層観察と遺構・遺物の有無の確認を行った。

### (5) 結果

全ての地点で遺構・遺物は確認されなかった。以下、土層確認した地点について述べる。

#### ① NO404-3-1 地点（マンホール設置箇所）

幅1.9m×長さ1.9mを掘削。道路面から旧表土層までの盛土層1.4m、1.4～2mは黒色粘土層（旧表土）、2m以下で灰色砂質粘土層となる。旧表土まで深いところから、低湿地であったと思われる。

#### ② M 43-2～北側宅地間

幅1m×長さ4mを掘削。盛土層は約80cm、0.8～1.1mまで暗褐色砂質粘土層、1.1～1.4mまで黒褐色粘土層、1.4～2mまで明灰色粘土層、2m以下青味のある灰色砂質粘土層となる。

#### ③ M 43-2から南へ8mまで

幅1m×長さ8mを掘削。盛土層は約80cm、0.8～1.2mまで灰色粘質砂層。1.2m以下は灰色味を帯びた褐色粘土層となる。④と近いが土層の変化があり、南北方向の掘削による東壁は、旧河川の断面を観察している状況に近いと思われる。

#### ④⑤ 404-2-1付近

幅1m×長さ30mを掘削。盛土層は約100cm、南に進むにつれ地山が高くなる。

#### ⑥ 409-1から北側へ20m付近

幅1m×長さ20mを掘削。盛土層は約100cm、現地表面下165cmにおいて、しまりの良い褐色粘土層（地山）が現れる。

#### ⑦⑧ 407-1（マンホール設置箇所）

長岡南森遺跡範囲内の掘削地点である。幅180cm×長さ320cmを掘削。盛土層は約100cm、現地表面下130cmで条件の良い褐色粘土層となる。⑥の地点から約15m南森側に近づき、⑥と比べ地山の褐色粘土層も約35cm高い位置で検出される。

#### ⑨⑩ NO404-3-1～404-1-1

幅1mで404-3-1地点から東へ67m掘削。土層断面は①と同様。

#### ⑪⑫ NO406-1の西

幅1mで、長さ34m掘削。土層断面は①と同様。

#### ⑬ NO409-1 地点（マンホール設置箇所）

幅1.9m×長さ1.9mを掘削。土層断面は①と同様。

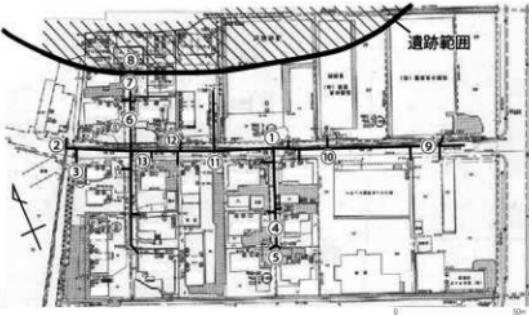
### (6) 考察

調査地は、長岡南森遺跡の南端付近にあたり、遺構・遺物は検出されなかった。土層の状況からは低湿地と思われる。東西方向に灰色粘土層が続き、北側では南森丘陵に近づく

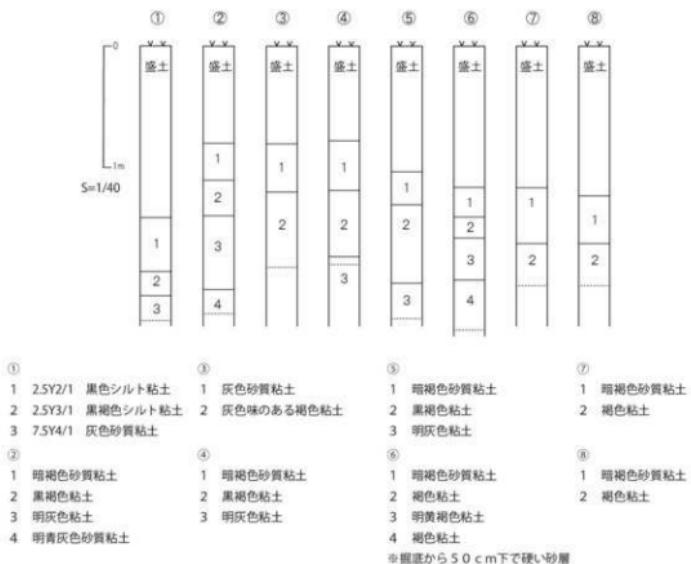
につれ地山が高まり、南側でも南に行くにつれ地盤が良くなる傾向があることから、南森丘陵の南端を巡るように東西方向に連続する低地があったと思われる。



第42図 長岡南森遺跡  
開発予定地位置図 S=1/8000



第43図 長岡南森遺跡立会調査位置図 S=1/2000



第44図 長岡南森遺跡立会調査柱状図

## 9 沢田遺跡・島貫遺跡

(1) 調査日 平成26年9月22日、10月1日

(2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字樋ノ越、萩生田字下川原、島貫字六角（丸堤周辺）  
調査対象地（工事）面積 9,000m<sup>2</sup>

(3) 調査原因 公園整備事業（94条）

(4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の沢田遺跡及び島貫遺跡の範囲にあたる。丸堤を巡る遊歩道・公園整備のため堤塘の低平化と、丸堤の外側を東から北に取り巻くように位置する長堤跡等の周辺窪地の埋め立てを行うことから、工事の際に立会調査を行った。

(5) 結果

既存堤塘の低平化のため切土した箇所については川原石の多い盛土であり、遺跡が確認される地山層まで掘削を行わなかったことから、遺構や遺構に伴う遺物は確認されなかつたが、丸堤北西部の堤塘の表土で摩耗した石器1点を採集した。

(6) 考察

調査地は、周知の沢田遺跡、島貫遺跡の縁辺にあたる。丸堤は吉野川旧河道に由来する堤群の一つであり、古代置賜郡衙に関係する郡山遺跡群の中に位置し、周囲には多くの遺跡が分布しているが、今次調査地は旧河道内であり、掘削も浅いことから遺跡は確認されなかつた。



第45図 沢田遺跡、島貫遺跡開発予定地位置図 S=1/3000

## 10 高木遺跡隣地（若狭郷屋字扇田）

(1) 調査日 平成 26 年 9 月 25 日、11 月 4 日、11 月 10 日、11 月 12 日

(2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字扇田 745-1,754-4,5 他

調査対象地（工事）面積 1,280m<sup>2</sup>

(3) 調査原因 市道整備事業（94 条）

(4) 調査方法及び内容

調査地は、高木遺跡の隣地である。市道若狭郷屋 2 号線整備事業に伴う下水道工事、側溝工事等の掘削を伴う土工事に立会い、遺構・遺物の有無の確認と土層の確認を行う。

(5) 結果

調査地は、周辺より一段低く現況は道路である。地表面から約 170cm 下で褐色粘土層となる。遺構・遺物は検出されなかった。

(6) 考察

調査地は、西に高木遺跡が隣接し遺跡確認調査の未実施箇所である。当該地の地形は、周辺の地形状況から、元々は周囲より低い土地であると思われるが盛土等により現況は道路となっている。遺構・遺物は確認できず、当該地に遺跡はないものと思われる。唐越遺跡の遺構面と同質の褐色粘土層が地表下約 170 cm の深さで確認されることから、唐越遺跡で深さ 30cm、字扇田で深さ 170cm と西に行くにつれ深くなる様相を示す。今次調査地と平成 25 年度試掘地は吉野川旧河道上にあたるものと思われる。



第 46 図 高木遺跡隣地開発予定位置図 S=1/2000



## 11 唐越遺跡隣地（若狭郷屋字江中郷）

- (1) 調査日 平成 26 年 9 月 25 日
- (2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字江中郷 508-6
- (3) 調査原因 民間開発
- (4) 調査方法及び内容

調査地は、唐越遺跡の隣地である。遺跡有無の未確認地である対象地について、店舗解体工事に係る埋設管撤去の際に深掘を行った箇所について立会を行った。

### (5) 結果

調査範囲は、店舗用地再開発にかかる解体工事に伴う掘削箇所で、幅約 1 m × 長さ約 25 m である。土層観察では、現地表面下に約 1 m の厚い盛土がなされており、その下に、元々の旧表土（水田耕作面）と思われる黒色粘土層が見られ、約 130cm 以下に灰色粘土層が堆積している。断面、平面観察ともに遺構・遺物は確認できなかった。

### (6) 考察

調査地は、唐越遺跡の西側にあたり現況は店舗用地である。宮内扇状地の扇央付近に位置し、吉野川旧河道の左岸にある。字名の「江中郷」が示すように、この付近は複数の小河川に挟まれた中州状の微高地が点在する地形であり、調査地も微高地に挟まれた低地であったと思われる。調査地東側に所在する唐越遺跡の遺構面である褐色粘土層は、地表面から約 30cm 下であるが、今次調査地では 130cm 以下でも灰色粘土層で唐越遺跡の遺構面に達しないことから、唐越遺跡に比べ 100cm 以上低い低地であったと思われる。唐越遺跡にみられる区画溝との位置関係から、掘削箇所がちょうど南北軸の水路上にあたっている可能性もあるが、遺構・遺物が確認できなかったことから周知の唐越遺跡西側の範囲の変更は無く、唐越遺跡や条里制との関係は今後検討を要する。



第 48 図 唐越遺跡隣地開発予定地位置図 S=1/4000

## 12 萩生田遺跡

(1) 調査日 平成 26 年 12 月 9 日～19 日

(2) 調査場所 南陽市萩生田字中屋敷 950 地先～字上屋敷 1234-1 地先

(3) 調査原因 市道整備事業（94 条） 調査対象地（工事）面積 1,235.4m<sup>2</sup>

(4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の萩生田遺跡にあたる。市道萩生田中央線整備事業に伴う側溝工事等の掘削を伴う土工事に立会い、遺構・遺物の有無の確認と土層の確認を行う。

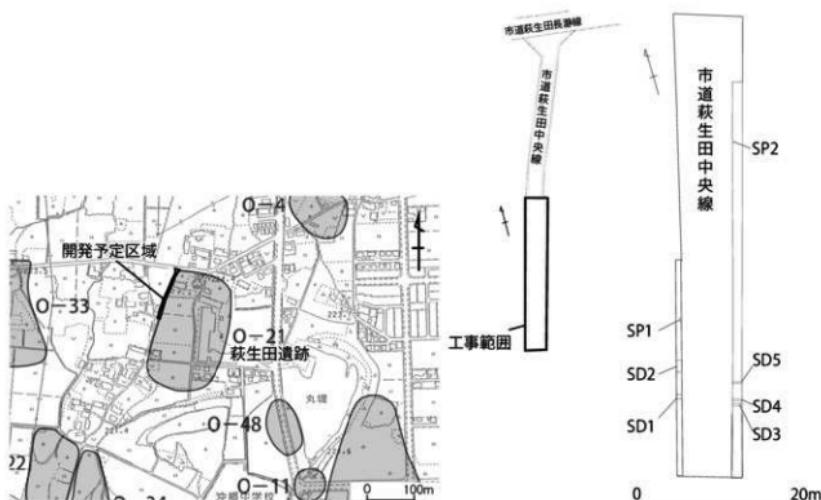
### (5) 結果

西側の側溝では、現地表から約 40cm 下で、良好な褐色粘土層を確認し、その掘削面で 2 箇所の溝跡（SD 1、2）と不明瞭な柱穴状の落ち込み（SP 1）を検出した。東側の側溝では断面で 3 箇所の溝跡（SD 3～5）と柱穴（SP 2）を確認したが、今次掘削範囲の深さ及び幅が殆ど旧側溝の盛土内に収まっており、遺構の確認は部分的であった。旧側溝基礎工は、丸太を横に寝かせ一定間隔で縦杭を打ち込み、その上に U 字溝を置く工法をとっており、今次検出の柱穴状の落ち込みは土質や間隔等からこの縦杭跡の可能性がある。

### (6) 考察

調査地は、吉野川旧河道右岸の自然堤防状の微高地が南北に連続するライン上に位置しているが、南や北の微高地に比べやや低平である。周知の萩生田遺跡の西端にあたり、調査地の現況は市道であるが周辺は水田である。かつて今次調査地の北東約 70 m の地点で石包丁、北東約 140 m の地点で破壊古墳に伴うとみられる金環等が出土しており、近隣には弥生時代から古墳時代の遺構があるとみられる。

現況道路の盤土のほぼ直下（現路面から約 40cm）において、遺構面となる褐色粘土層（地山）が検出され、遺構は、溝跡と柱穴状の落ち込みが検出されたが、柱穴状のものは旧側溝工事に伴う可能性が高い。遺物は土師器小片 1 点である。



第 50 図 萩生田遺跡開発予定位置図 S=1/8000

第 51 図 萩生田遺跡平面図 S=1/600



上野山第1地点（山頂付近）



上野山第1地点（南斜面）



上野山第2地点（南から）



上野山第3地点（東北から）



上野山1号墳（西から）



上野山1号墳（石室内）



上野山2号墳  
(南から)



上野山3号墳



上野山 4号墳



上野山 5号墳



上野山 6号墳



上野山 7号墳



上野山 8号墳



上野山 9号墳



上野山 10号墳



上野山 11号墳



上野山 12号墳



上野山 13号墳



上野山 14号墳



狸沢山古墳群 A 支群遠景



狸沢山古墳群 B 支群遠景



狸沢山古墳群 A 支群 3号墳



狸沢山古墳群 B 支群 1号墳



狸沢山古墳群 B 支群 2号墳



狸沢山古墳群 B 支群 3 号墳



狸沢山古墳群 B 支群 4 号墳



狸沢山古墳群 B 支群 5 号墳



狸沢山古墳群 B 支群 6 号墳



狸沢山の奥にある鉢山跡



二色根 3 号墳の東側 マウンド状地形



二色根古墳群 F 地点 マウンド状地形



二色根古墳群 5 号墳、6 号墳可能性地点



岩部山 岩屋堂



岩部山 こもり石



岩部山 立石



岩部山 立石（磨製石斧表採）



岩部山 洞窟入口



岩部山 岩陰洞窟入口



鷹戸山 山頂付近尾根



岩部山 南斜面ゴーロ



字橋抜付近の石垣



字郡石付近の石垣



字中沢のマウンド 1



字中沢のマウンド 2



字砂利山のマウンド 3



字砂利山のマウンド 4



字砂利山(諏訪神社南側)  
の坑道入口跡



字砂利山付近の露頭掘り跡



周知の館平館遠景（南から）



字館～字五十勾付近（周知の範囲外、西から）



周知の館平館東端（東から）



周知の館平館南東端（南から）



山崎神社御神体のある岩



山崎神社の裏山斜面



山崎神社南側の坑道入口



東ノ北遺跡（北西から）



東ノ北遺跡の西～中落合館北辺を走る運河か道路跡



中落合館の北、伊賀守碑のある微マウンド地形



高木遺跡 範囲確認（字水上・観音田）



若狭郷屋字樋ノ口



馬ノ墓遺跡（馬ノ墓古墳）



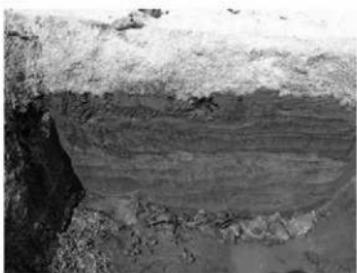
三間通字地蔵田 TT1



三間通字地蔵田 TT2



三間通字地蔵田 TP3



大橋城 TT1



大橋城 TT2



長岡南森遺跡 調査前 全景



長岡南森遺跡  
TT1



長岡南森遺跡 TT5



長岡南森遺跡 TT6



長岡南森遺跡 TT9



長岡南森遺跡 TT8



長岡南森遺跡  
TT11



長岡南森遺跡 TT13



長岡南森遺跡 TT15



長岡南森遺跡 TT16



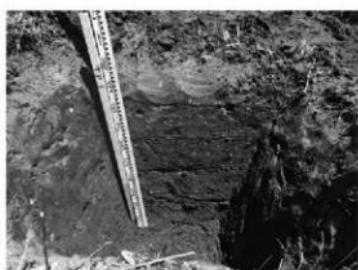
長岡南森遺跡 TT17



大野平遺跡 TP1 調査前



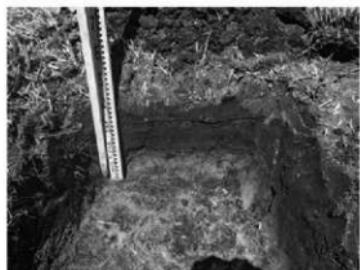
大野平遺跡 TP2,TP3 調査前



大野平遺跡 TP1



大野平遺跡 TP2



大野平遺跡 TP3



長岡山遺跡隣地 試掘地全景（北西から）



長岡山遺跡隣地 TP1



長岡山遺跡隣地 TP2



長岡山遺跡隣地 TP3



長岡山遺跡隣地 TP4



長岡山遺跡隣地 TP5



長岡山遺跡隣地 TP6



長岡山遺跡隣地 TP7



長岡山遺跡隣地 TP8



長岡山遺跡隣地 TP9



長岡山遺跡隣地 TP10



長岡山遺跡隣地 TT1



太子堂遺跡 調査地遠景（北西から）



太子堂遺跡 TT1



太子堂遺跡 TT1 溝跡

図版 12 長岡山遺跡隣地、太子堂遺跡



太子堂遺跡 TP2



太子堂遺跡 TT3



太子堂遺跡 TP4



太子堂遺跡 TP5



太子堂遺跡 TT6



蒲生田館隣地 立会



西中上遺跡隣地立会



西中上遺跡隣地立会 土層



東六角遺跡立会



東六角遺跡立会 土層



宮内字宮前立会



宮内字宮前立会 挖削面確認



宮内字下田立会（北西から）



宮内字下田立会（東から）



門塚館立会（南から）



門塚館立会 土層



中ノ目下遺跡立会（北西から）



中ノ目下遺跡立会（北東から）



長岡南森遺跡立会 地点①



長岡南森遺跡立会 地点①～⑩



長岡南森遺跡立会 地点②



長岡南森遺跡立会 地点③



長岡南森遺跡立会 地点④



長岡南森遺跡立会  
地点⑥



長岡南森遺跡立会 地点⑦

図版 15 中ノ目下遺跡、長岡南森遺跡



長岡南森遺跡立会  
地点⑧



長岡南森遺跡立会 地点⑨



長岡南森遺跡立会 地点⑩



長岡南森遺跡立会  
地点⑪



長岡南森遺跡立会  
地点⑫



長岡南森遺跡立会  
地点⑬



島貫遺跡立会



沢田遺跡立会



高木遺跡隣地立会



高木遺跡隣地  
立会



唐越遺跡隣地（字江中郷）立会



唐越遺跡隣地  
(字江中郷)  
立会



萩生田遺跡立会（南から）



萩生田遺跡立会（北から）



萩生田遺跡立会 西側側溝



萩生田遺跡立会  
東側側溝 1



萩生田遺跡立会 東側側溝 2



萩生田遺跡立会 東側側溝 3





南陽市埋蔵文化財調査報告書第10集  
南陽市遺跡分布調査報告書（2）  
2015年3月31日

発行 南陽市教育委員会  
〒 999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地の1  
電話 0238-40-3211（代）  
印刷 有限会社 文進堂印刷  
〒 999-2221 山形県南陽市鶴塚 811 番地の3  
電話 0238-43-2116







